

# 変わり者の世界貴族

ニャンコスター

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

天竜人なのに人々はその天竜人を本当の神様と呼ぶ、その天竜人はとても優しくて誰よりも下に住む人々を思っている。

天竜人の中にもこんな天竜人が居てもおかしくは無いと思い作りました。

幼少期編は基本的に日記風です。

2020/5/22 主人公の幼少期

思ったよりも上手く描けなかつたです、下手くそだけど作者の画力の限界。

幼少期

目次

第1話	日記開始	1
第2話	日常生活	3
第3話	貴族の言う事	6
第4話	売り子は海兵	9
第5話	悪魔の実	12
第6話	シャボンディ諸島	15
第7話	初めての友達	18
第8話	能力自覚	21
第9話	魚人との触れ合い	24
第10話	友達との日常	27
番外編1	役員の内心	30
第11話	マリージョア巡り	38
第12話	外遊び	41
第13話	様々な奴隷	44
第14話	楽しい時間	47
番外編2	魚人の冒険家	50
第15話	魚を逃す	53
番外編3	役員の葛藤	56
息抜き編	絵本	67
第16話	振り返り	73
第17話	奴隷解放	78
第18話	新たな日記帳	82
第19話	その後	86

第20話	パンゲア城	93
第21話	探索	102
第22話	ウリエル	108
第23話	科学の道	111
第24話	科学者	114

## 幼少期

### 第1話 日記開始

文字を書けるようになったから今日から日記を書きます！

あきるまではつづけます！

さいしよは自分について書きます。

わたしの名前は

クオンタム・クアトロ・シリカです、

今はもう5才になりました！

今はキツチリしたスーツって言うのを着てる人に文字を教えるもらいながら書いています。

家にはたくさんの人がいて、毎日いろんなことをやっています、だけど中には大変そうな人もいます。

たとえば、お父さんやお母さんがお馬さんごっこで乗って、そのままどっかに行ったり。

長いヒモのような物でさわったりしていて。

お父さんやお母さんに、きらわれると、うたれて、血を出してしんじやいます。

だけどいつの間にか新しい人が来るのでいなくならないです。

その人たちの背中にはふしぎなしるしが付いていて、手に何か付けてたり、首ワをしていて。

あばれた人は、叫んだり、泣いたりして、なぜかバクハツします。その人たちのことを、みんなはドレーと言っています！

わたしたちはマリージョア？ってところに住んでいて、とっても高いところにあります。

わたしたちは天りゆう人？と言われたり、世界きぞく？と言われて、何と！

世界を作った人たちの血がながれてる、って教えてもらいました！あと！わたしにも友だちができました！

もつと友だちが多くなるとうれいす！

だけどみんなは名前に せい や ぐう が入る人ばかりです、  
だけど付いてない人もいます。

友だちはちよつと年上の人が多いけど平気です！

たまにちよつかいを出してくる友だちもいるけど、平気です！

それに、わたしの家は広くてカイトキでいつもキレイでピカピカして  
ます！

ソージをしてくれてるのは、いつも大変そうな人たちです。

たまにお父さんやお母さんはピカピカした石をみがいてたり。

スーツの人が大事なものをカンリ？しています！

そして、家には大きい、本ばかりの、へやがあります。

いつもそこで本を読んだりベンキョーしたりして毎日をすごして  
います。

いろんな本があつて楽しいです！

たとえば、世界にはどんな人がいるか書かれてたり。

ふしぎなくだものがたくさん乗ってる本や。

世界のホーリツや、国がたくさん乗ってる本があります！

だから一日中そこにいても、あきないです！

だけどお父さんやお母さんはこーゆー本を読むよりもドレーに  
ちよつかい出す方が良いと言います。

が、わたしはこーゆー本を読む方が楽しいです！

みんなの言うドレーがかわいそうだから。

わたしはドレーにちよつかいを出さないです！

いつかわたしは、ドレーと言われる人を世界からなくしたいです！

何で何もしてない人たちが、こんな目にあうのか、わたしには、わ  
からないからです！

たとえばみんなから、おこられたり、天りゆう人のシヨーゴをハク  
ダツ、されたつてドレーと言われる人をなくします！

お母さんによばれたので、そろそろおわります！

スーツの人にきいてみたら、さいごはカンソー文？みたいだと、言  
われたけど気にしてません！

今日の日記はここまでです！

## 第2話 日常生活

今日も日記を書いていきます！

今日は毎日の生活について書いていきます！

まずは朝おきたら歯をみがいて、そしてご飯を食べます！

ご飯を食べおわったら、自分の部屋に行きます！

そう！もう私だけの部屋があるの！スーツの人に聞いたら、自分の部屋がもうあるのは、すごいって言っていました！

少しはなれたけど、話を戻します！

自分の部屋に行った後は、スーツの人に文字や数字を教えてください！

たまに少しだけど、世界の事を教えてください！

そして窓からお外を見て、お日さまが真上まで来たら、お昼ご飯を食べるために部屋から出で、食べに行きます！

お昼ご飯を食べ終えたら、お外に行きます！

その時もスーツの人が付いてきて、お父さんとお母さんは、付いてきません。

だけどお父さんとお母さんは、スーツの人をシンライ？！してスーツの人に私の事をたのんでる、ようです！

いまいち私は、私の事をたのむって、言葉の意味がわかりません！なのでスーツの人に聞いてみたら、私がケガをしないか見てくれ、って意味みたいです！

だけど私はたまには、お父さんやお母さんと、お外に行ってみたいです！

なぜならお父さんやお母さんと一緒にお外に行ったら、下にあるシャボンディ諸島？、と言う所に行けます！

そこには遊園地？って言われてる、タテモノの集まりがあります！例えばジェットコースターって言う、お空にあるレール？の上を走ってて、まるでお空を走ってるような箱があります！

他にもカンランシャ？って言う、一回転して、一番上まで行くと辺り一帯が見わたせて、とってもキレイです！

クモの巢のような、物の先に箱が付いています！

とにかく楽しい物が乗りホーダイなので行きたいです！

だけど乗る時はいつも待っている人が居るのを、無視して乗っているのが痛みます！

それにシャボンディ諸島に行くといつも暑くて、動き辛い、服に着がえます！

そしてシャボン玉を頭に付けなきゃいけないので、凄く目立ちます！

なのでそれが少し嫌です！

それに歩いたび人々がひざまづくのは、ふしぎだし目立ってて、凄く嫌です！

結構話かはなれて、しまったので戻します！

いつもお外に出てする事は運動です！

例えば色んな所に歩いて行ってみたり、木を登ったり、日の当たる草むらに寝っ転がったりします！

草むらに寝転がる事は、一応付いてきてるスーツの人に止められます！

だけどやめません！

いつもやってる事だけど、すれ違う他の天りゆう人は、なぜか変な目で見てきます、なんで変な目で見てくるのか、わかりません！

そしてお日さまがしずんで来て暗くなって来たら、お家に帰ります！

お外に行ったときは帰って来たら、まずはお風呂に入って体を洗って、着がえます！

そしたらご飯ができてるので、ご飯を食べます！

ご飯を食べ終えたら、自分の部屋に戻ります！

自分の部屋に戻った後はあらかじめ、大きい、本ばかりの部屋から、何冊か気になる本を借りて、自分の部屋の本棚に置いています！

寝る前に3〜5ページぐらい読んでから、寝ます！

でも、日記を書き始めてから2日しか経って無くて、今日が2日目だけど、本を読んでから、日記を書いています！

ちなみに雨の日や天気が悪い日は、ずっと部屋にこもって、本ばかり読んでいます！

これで、毎日の生活は書き終えたし、眠くなって来たので、今日の日記はこれで終わります！

おやすみ！

### 第3話 貴族の言う事

今日で三日目になりました！

三日坊主にならないように、ちゃんと明日も書こうと思います！  
今日は周りのみんなが、いつも言っている事を書いていきます！  
まずは！日記だとお父さんやお母さん、って言ってるけど、本当にお父さんやお母さん、って言うて怒られます。

そして父上や母上と呼べと言われます、なんでなのか、わたしには、わかりません！

たとえば「D」って名前がつく人はアクマの化身で、いつも、わたしたちのジャマをしたりするらしいです。

みんなは「D」の名前がつく人に関して？こう言います。

「D」のゾクは神のテンテキ」

「ゾーゾーシユの血を引く我らこそ神であり、その神のテキこそが奴ら」

「ワルイ事したら「D」に食われるぞ」

「D」のゾクはいつも嵐を引き起こすヤツカイモノ」

わたしは意味がわかりません！だって「D」って付いてるけど、やさしい人はかならず居ると思います！

話を少し変えます！

「D」って名前はかくす人も居るらしいです。

だけどかくさ無い人はかくさ無いです！

わたしが知っている「D」の付く人は海軍？って言うところにシヨゾクしていて、エイユーのガープ中ジョウって人がいます！

他にも知っています！

しんじやつたけど海ぞく王のゴールド・ロジャーや、手配書だとハカイ神のアンバー・D・シトリン、とかです！

ちなみに、エイユーのガープさん以外はアクマの化身って、お父さんとお母さんは、言います。

一回ガープさんに会ったことがあります！ガープさんは、すごくやさしい人だけど、自由な人で部下？の人が大変そうにしました！

そういえば、その時ガープさんはなんか、たしか涙ぐんでる？ ような気がしました！

その事についてスーツの人に聞いてみると、あたりまえって言いまして、なんでだろう？

ふつうに、いろんな事を聞いてみたりして、思った事をスナオに言っただけなのに、ふしぎな人たちだったです。

他には、魚人ゾクと人魚ゾクの事を、みんな口をそろえて

「アレはただの魚であり、人では無い」って言います。

なんで人じゃ無いかわかりません！

わたしには、どう見たって魚人ゾクや人魚ゾクは、人にしか見えません！

それに海の中を自由におよびて、水の中で生きてられるのは、他の人にはマネできないので、すごいと思います、うらやましいです！

そういえば、みんなは下に住んで居る人を見下す？ って言うんだっけ？

とにかく自分達より下に見てます。

なんでみんなは下に住んで居る人を見下すんだらう？

同じ人間なのに、ふしぎです！

あつ！ 大事な事を忘れてた！

ドンキホーテ・ホーミングせい、って言って、私たちも昔から神さまじゃなくて、人間だって言ってた人です！

みんなはホーミングせい、のことをウラギリ者や、イタンジ？ って言います。

だけどわたしは、変な考え方だと思いません！

ちよつと、はなれたので話を戻します！

けつこう前に天りゆう人のシヨーゴーをすてて、北の果ての世界セイフ非加メイ国に行つて、暮らそうとした人です！

だけど、しばらくしたら、わたし達の住んで居るマリージョアに、その人の首が、その人の子供のドフラミンゴ？ によって届けられたらしいです。

その子はボロボロだった、ってスーツの人が言っていました、その子

はケツキヨク帰れませんでした。

ふりよう？友達と作った海ぞく団が、ドンキホーテふぁみりー？つて言います！

今日の朝のシンブんに書いてありました！スーツの人に読み方を聞きながら読みました！

毎日じゃないけど、にゅーすくー、つて言うシンブンを、スーツの人にいつも、しつ問しながらよんでいます！

いきなりだけど、今日はもう10時になったので、寝ます！

おやすみー！

## 第4話 売り子は海兵

今日は4日目です！このまま日記をつづけていきます！

今日は年に一度カイサイされる、おまつりがあつて天気も良かったから、お父さんとお母さんといつてきました！

いつもはそんなに、外に出ないお父さんとお母さんがなんと！おまつりに連れてつてくれました！

めずらしく思わずカレンダーを見てしまいました☆

それで、マリージョアでカイサイされるおまつりはいつも、世界中のあっちこっちから、いろんな美味しい食べものが集まってきました！

屋台つて言うものがズラーと並んでいます！

屋台の一つ一つに海兵さんがいて食べたいものを、たのんだらテイネイに渡してくれます！

もちろん、食べるためにはお金を払わなきゃ、いけないんだけどスーツの人がお金を代わりに払つておいてくれます。

美味しそうな食べ物がたくさんあつて、なやんでいるとスーツの人が美味しそうな、りんごあめ？つて食べ物をススメてきました。

食べてみたらアメの甘くてカリツとしてて食べやすくてさらに、りんごがいつもより、ものすごく甘くてだけど少しすっぱくて、とても美味しかったです！！

食べながら歩いていると、あんずアメ？つて言う屋台があつたので、りんごあめを食べおえてから近いてみました！

あんずアメの屋台の、何故かほつぺたにフオークがくっ付いてる海兵さんに、

「あんずあめください！！」つて言つてみました。

そしたら少ししてからあんずアメをくれました！

さつそく食べてみたら、アメみたいなんだけどドロドロですつごく甘くて美味しかったです！！

だけど歯にくっ付きやすかったです。

スーツの人に聞いてみたら、このアメみたいなドロドロは、水アメつて言う水みたいなあめだったです！

ふしぎで、だけど甘くて美味しかったです！

あんずアメを食べおえてまた見て歩き回っていると、今度はアメざいく？って言う屋台があったので気になって、スーツの人に、

「あめざいくって何？」って聞いてみました。

そしたら溶けた水アメを例えば動物とかの形にして固めたもの、らしいです。

今回も屋台に近づいて、背が高くて何故かアイマスクを付けてるだるそうな海兵さんに

「鳥のあめざいくくださいー！」って言ってみました！

そしたら少しだるそうに返事をしてから作り始めました。

その海兵さんはテキパキとドンドン鳥の形にしていきました！

そしてあつと言う間に、キレイなピカピカしてるかつこいいキジミたいな鳥を作って、ささってるボウをやさしく、わたししてくれました！

お礼を言ってから、改めてみてみたら、氷みたいにスキトおってて、だけどほんのり空色で、宝石みたいでキレイでした！

少ししてから食べてみたら、甘いんだけど、やさしい甘さで何度も食べたくなるような味でした！

口の中で鳥の形をした水アメが甘くあばれました！

食べおえたらまた、美味しいものがある屋台を探すべく、見て回りました！

そしたら雲みたいな白くてふわふわした物売っている屋台がありました、わたあめって書いてあります。

スーツの人に聞いてみたら、サトウにネツを加えて、細いわたみたいにしたのをボウで巻き取っていくおかしみたいです！

甘いみたいだから、さつそく近づいて、私の3倍ぐらいは背の高い黄色いかみの海兵さんに

「わたあめくださいー！」って言ってみた。

そしたらその海兵さんは少しビックリしたみたいでコケたけど、すぐに立ちあがってサトウを真ん中の穴に入れて作り始めました。

作ってる最中何故かうでの方にわたあめが、からみついたりしてハ

プニングは少しあったけど、大きいわたあめを完成させて、笑ってわたあめを、わたしながら頭をなでてくれました！

ちよつとビックリしたけど、笑い返してから少しはなれました。

あらためて、わたあめを見ると大きくてふわふわで軽くて本物の雲みたいでした！

あまりにも大きいから、少しちぎって食べてみたら、口の中で甘みがあ甘くくとけ広がって、だけど少しふわふわでもものすごく美味しかったです!!

ふわふわしてて甘くて美味しくて、いつの間にか思いつきりパクパク食べ進んでいました。

だけど顔を突っ込んで食べたなら口周りや顔が少しだけベタつきました。

だから食べおえてから、スーツの人にたのんで、ぬれたタオルを用意してもらって、それでカオや手をふきました。

これ以外にもいろんな屋台があって楽しかったです!!

いろんな屋台をまわって、更にいろんな海兵さんとも会いました！

書きたい事はいっぱいあるけど見開き？に収まりきれないので、三つだけ書きました！

今日の日記はここまで！つかれたのでもう寝ます。

おやすみ！

## 第5話 悪魔の実

今日は5日目です！今日も日記を書いていきます！

今日は雨の日だったので、家の中をタンケンしてみました！

自分の部屋を出ると、とつても広いロウカがあつて、色んなキレイな石ゾウ？ドウゾウ？とかがいっぱい並んでいます！

今日はいつも行かない、幻の生き物のゾウが建っている左に行ってみました！

あまり人が通らなくてサミしいから、お父さんに連れられた時だけ行ってます！

けどお父さんのヨコからハナれるなつて言われてて、あまり何があるのか知らないです！

けどサワルなどは言われて無いです！

話を戻して、しばらく歩いたら大つきなドアがあつたから入ってみました。

そしたらフシギなふんいきでした。

ショーケース？に、おかしなモヨウが付いててさらにグルグル巻きだったり、丸かつたりする、フルーツみたいな物が、いっぱいあつて、色んな色があつてカラフルでした！

しばらく見て歩いて居たけど、気になつて気になつてしょうがない物が有つたから、近づいて見て見ました！

そしたら少し光つた感じがしたけど、気のせいでした！

それは金色でなんかとてもキレイでした！

小さなドアを開けてサワつてみたら、くだものみたいで、食べれそうでした。

しばらくサワつたり見てたけど、金色でフシギでした！

少しおながが空いてたから一口かじってみました、美味しそうに見えたけど、かなり美味しくありませんでした。

一口食べちやつて残すのもイヤだから全部食べきりました！

最初にかじつた時、少し体にフシギな感じが走つたけど、変な感じはしなかったからまたしばらく見て周りました。

だけどさつきみたいに特に気になる物は無かったから部屋を出ました。

何かでさつきのフシギなくだものを見た事がある気がして、気になりました。

だから自分の部屋に行つて、自分の本棚で探して見ました、するとアクマの実図カンつて言う、前にフシギなくだものがたくさん書いてある本があります！

開いてみたら、あのくだもの部屋で見たような、フシギなくだものがたくさんありました。

ページをめくっていると私が食べたくだものに似たアクマの実がありました！

本に書いてあるのはオレンジ色で、鳥の羽みたいなグルグルが付いています！

私が食べたのは色違いの金色だから、また別のアクマの実だと思います！

そのページには  
「ゾオン系アクマの実ゲンジュウ種トリトリの実」って書いてありました。

だから私が食べたのはトリトリの実だと思いました！

たまたま近くに居たスーツの人に聞いて見たら、スーツの人はかなりおどろいてたけど、しばらくしたら話してくれました！

スーツの人の話はこうでした！

「ロシリカちゃん食べちゃったのはアクマの実と言って、一回しか食べられないけど、食べちゃったら海に嫌われて泳げないカナヅチになるんだよ、だけどその代わりにフシギな力が使えるようになるよ」  
ふと気になって

「なんでアクマの実是一回しか食べられないの？」聞いて見ました。

そしたら

「ちよつと怖いんだけどね、二つ目を食べると体の中にいるアクマが新しく入ってきたアクマとケンカしちゃうんだ、そしたら体が耐えきれなくてバクハツして死んじゃうからだよ」

教えてくれたお礼にちゃんとうりありがとう、って言いました！

話を聞いたら怖くて、何があってももうゼツタイにアクマの実は食べません！

眠くなってきたから今日はこれで日記を終わらせます。

おやすみ！

## 第6話 シャボンディ諸島

今日は6日目です！明日も書くつもりだから、あと少しで一週間！  
まだまだ書くつもりです！

今日はみんなでシャボンディ諸島に行きました！

一昨日もお父さんとお母さんとお祭りに行ったのがウソみたいで  
す！

あんまり私とは出かけようとし無いのにフシギです！

けどあの目立つ服を着て頭にシャボン玉を付けなきやいけ無い  
から少しイヤでした。

なんであんな物付けなきやいけないんだろう？

それよりも！

久しぶりに行ったシャボンディ諸島は、キラキラしてて凄く楽し  
かったです！

下に住んでる人達は毎日見ても楽しい所に居るのかな？

でもあまり遊べなかつたです。

お父さんとお母さんと、みんなでドレーはんばい所？って所に行つ  
たからです。

中に入ったらたくさん人が居ました。

前にあるブダイ？を中心にみんなで囲んで居ました。

入ってしばらくすると、ブダイに一人出てきて、オークションを始  
めるって言いました。

そしたら何回か首ワを付けた人が出てきて、みんなが数字を言っ  
て。

最初に出てきた人が

「○○番の札！○千バベリー！他はいないか?!……………落札！」って  
言っ歩いてきました。

しばらくすると、首ワを付けたフシギな人が出てきました。

その人は私よりも少し年上です！

背中に真っ白な羽根が生えていて、オオカミみたいな尻尾と頭に耳  
が生えてました。



「ゆっくりして！」って言いました！

そしたらツカれてたみたいで、すぐにクッションの上で寝ちやいました。

私もそろそろ眠くなったので、寝ます。

おやすみ！

## 第7話 初めての友達

今日は7日目です！今日で日記は一週間目です、目指せ1ヶ月！  
今日は昨日うちに来たあの子について書いていきます！

まずは色んなところがボロボロだったから、お医者さんと一緒に治しました！

お医者さんがチリヨウした後に私がホータイを巻きました！

白い羽根に白いホータイ、ギン色でキレー！そんな尻尾や耳にも白いホータイを巻きました！

お医者さんのチリヨウが終わった後、自己紹介してから、あの子に名前を聞いてみました！

したらウリエルって言うみたいです！  
仲良くなれるといいな。

ちなみに年は私の二つ上の7才です。

いきなりだけど、あだ名で呼び合いたくて、ウリエルだからウーちゃんって呼ぶことにしました！

ウーちゃんに言ってみたら笑って許してくれました！

長いからウーちゃんも私のことを、リカちゃんと呼ぶって言いました！

あだ名で呼び合うのは初めてです、だからうれしいです！  
フシギなことがいっぱいあって、色々とウーちゃんに聞いてみまし

た！

まず聞いたのは羽根のことです。

なんでこんなに大きな羽根があるのかフシギでした。

ウーちゃんが言うには、この羽根はお月さまに住んでいた人にも大きな羽根が生えてて、その民ゾクとのハーフ？で、生まれつきあるらしいです！

そして次に聞いたのは、なんでオオカミみたいな耳と尻尾があるんです！

ウーちゃんのお母さんがオオカミのミンクゾクだかららしいです！

でもミンクゾクについてはあまり知らなかったから、自分の部屋にある本棚にある世界の民ゾクジテンで探しました！

そしたらとても大きいゾウの上に住んでいる民ゾク、って書いてありました。

最近気になって本棚に入れたばかりの本だったから、まだ読んでませんでした。

さらに気になったので、今日から読んでいきます！

さっそく今日読んでみたけど、やっぱり魚人ゾクは最初のページで、番外ヘン？みたいな感じで書かれていました。

魚人ゾクをちゃんと魚じゃなくて人だって、ホーリツやみんなの考えを変えたいな。

そんなことよりも、ウーちゃんに下にある遊びを色々聞いてみました！

だけどウーちゃんはケガしてるから、あまり動かずに頭を使う遊びをしました！

人数が足りなかつたらスーツの人と一緒にやりました！

楽しい遊びがいっぱいあって、ドンドンやっていきました！

お母さんに呼ばれるまで遊んじやいました！

ウーちゃんはトランプを使う遊びを教えてくださいました。

トランプとかを使う遊びをカードゲームって言うらしいです、初めて聞きました！

ウーちゃんに教えてもらったカードゲームの中でも、とっても楽しかったゲームを書いていきます！

何個もあるけど一つ書きます！

一番楽しかったゲームは、ババ抜きです！

ルールも簡単で、ダイフゴウやダウトよりも簡単だったからです！

ダイフゴウはルールがちよっとフクザツで、ダウトはウソが顔に出ちゃうから難しかったです！

だけどババ抜きは、ジョーカーを最後まで持つちやいけないから簡単です！

同じ数字でペアを組んで捨てていって、手札をなくせば勝ちます！

カードを全部配って、ペアが全員組めなくなったら始まります！

毎回始まる前からペアがたくさん組めて、始まる時には私だけ5枚ぐらいになるのが多かったです。

そしたら時計周りに相手の手札を引いて行って、ペアを組んでいきます！

毎回じゃないけど、ほとんどは始まった時の枚数と同じ数だけ引いたら一番最初に勝っていました！

だけど、なんでこんなに運が良いのかわかりません！

勝つてばかりで、なんかウーちゃんのスーツの人に申し訳ない？感じがします。

今日は色んな遊びを遊んで楽しかったです！

今日はすごく眠いので寝ます。

おやすみ！

## 第8話 能力自覚

今日は8日目です！今日も日記を書いていきます！

今日はフシギなユメをみました、大空で金色に色んな色がたまに入っているキレイな鳥が、トンでいるのをみました！

あんな感じに自由にお空をトンでみたいな。

そして、朝おきて歯をみがこうとしたら、カガミに金色のキレイな鳥がいてビックリしました！

夢で見たようなキレイな鳥です。

でも少し考えたらカガミには自分しか写らないから、私は金色でキレイな鳥になってました！

もしかして、あのととき食べたフシギなフルーツのせい？

たしか、あのフシギなフルーツはアクマの実だったから、あの日から私の体にアクマが住んちゃって、もう泳げないみたいです。

でも泳いだことないから、関係ないです！

話を戻して、元に戻れ！って思ったら元に戻りました！

今度は元に戻ってから、鳥になれ！って思ったら鳥になりました！それで、元に戻ってご飯を食べてからまた、自分の部屋でつづけて

みました！

ウーちゃんは昨日もご飯は別で、スイーツの人にご飯を運んでもらって食べたみたいです！

ウーちゃんに見られながら、鳥になったり、元に戻ったり、ウデを羽根に変えたりしました！

羽根になれ！って思ったらウデが羽根になりました！

ウーちゃんもビックリしてました、ウーちゃんに色々聞かれたけど、がんばって全てこたえました。

ウーちゃんは生まれつき羽根は生えてるけど、トブのが苦手です。トベないみたいです。

だから、試しにウデを羽根に変えてパタパタさせてみました、すると私はトベました！

部屋の中をグルグル回ってから、ウーちゃんのとおりにおりまし

た。

ウーちゃんは最初はビックリしてたけど、少しずつなれて、すごいって言ってくれます！

スーツの人以外で久しぶりにホメられて、うれしかったです！

今度は鳥になって、ウーちゃんを乗せてトンでみたら、ふつうにトベたから部屋の外に出て、家中をトビ回ってみました。

部屋から出たらスーツの人に行っちゃいけない所を教えてもらいました。

家の中はとても広くて、天井も高くて、ロウカも広いから、少しトビやすかったです！

はじめて鳥になってトンでみたら気持ちよかったです！

ウーちゃんは最初はあわててたけど、やっぱりなれてきて、ビックリしてました。

たまにスーツの人たちや、ヨロイの人たちに会いました。

みんな少しビックリしてから色々言ってくれました。

家の中を一周して元に戻ってから、お父さんとお母さんがいる部屋に歩いて行きました。

ウーちゃんはまだケガが治って無いから部屋に置いて行きました。

お父さんとお母さんに私がアクマの実を食べたのを、一人で言いに行くのは怖かったから、一番一緒にいるスーツの人と行きました！

このスーツの人は私に色々教えてくれる、私のセンサーです！

たしか名前はタツツって言うんだっけ？

同じ服を着てる人は見分けがつけづらいです。

話を戻して、タツツと一緒にお父さんとお母さんに言ったら、ケッコウビックリしてました。

でも少ししたら、お父さん本当に食べたのか聞いてきました、お母さんはシズかに見てきました。

本当だから鳥になれ！って思いました。

そしたらお父さんに怒られました。

お母さんはそっぽを向いてました。

タツツはビックリしたのかな？

お父さんはこつちを、コワイ目で見ながら言いました。

「アレはドレーの食べ物だえ、天リユウ人であるシリカが食べて良い物ではないえ！」

お父さんがコワかったけど言いました。

「でもお空トべるようになったもん！泳げないけどお空トべる方が私は良いの！」

鳥みたいに自由にトビ回ってみたい。

そしたら、お父さんはさらに強く言ってきました。

「知らないえ！とにかく自分の部屋に戻ってハンセイするんだえ！」

お父さんがコワかったから、言われてからすぐに戻りました。

タツツーは私の後ろについてきました。

あんなに怒ってるお父さんは初めて見ました。

晩ごはんは今日は自分の部屋でウーちゃんと一緒に食べました。

会話が弾んで楽しかったです！

ウーちゃんと仲良くなれてるかな？

眠くなってきたから今日はここまで！

おやすみ！

## 第9話 魚人との触れ合い

今日で9日目です！明日も書くとキリがいい10日目になります！

今日は新しく来た赤い肌の魚人に会いに行きました！

今日までずっとウーちゃんと居たから、ウーちゃんと一緒に新しく来たドレーの人たちの所に行きました！

昨日やったみたいに、鳥になつてからウーちゃんを乗せてドレーの部屋にトビました。

ちよつとだけ私の部屋から遠かったけど、お父さんとお母さんの部屋よりは近いです！

そして、部屋の前に着いてウーちゃんを下ろしてから元に戻って、少し大つきくて重いドアを開けました。

でもドアノブもさらに高い所にいつて、ちよつと大変でした。

そしたら、ウエが長い人や、足が長い人や、首が長い人や、ウーちゃんとはチガウミンクゾクの人や、上は人だけど下は魚の人魚や、あの赤い肌の魚人とか、色々な人がいました。

でもみんな、なんか具合がワルそうでケガしてました。

お父さんやお母さんや、ここに住んでいるみんなは、なんでこんな事ができるの？

わたしは自分がやられたらイヤだから、ウーちゃんやドレーの人にそんな事やらないです！

だって、ドンキホーテ・ホーミングさんは下に住んだらしんじやつて、ドフラミンゴはボロボロだった、ってスーツの人が言ってたもん。だからヤサしくすれば、みんなが笑いあえると思います！

話を戻して、わたしはあの赤い肌の魚人に近づいて、名前を聞いてみました。

そしたら、あの赤い肌の魚人はフィッシャー・タイガーって言うみたいですよ！

長いからタイガーさんって呼ぶことにしました！

タイガーさんも色々な人と同じでケガしてたから、タイガーさんも

色々な人もお医者さんと呼んで治してもらいました！

だけど、治してる間みんながフシギそーな目で見てました、なんでフシギそーな目で見てくるのかな？

タイガーさんは名前を聞いたときも、ちよつとびっくりしてたし、なんでだろう？

そしてケガの治りヨウがおわったらタイガーさんに色んなことを聞いてみました！

そしたら、タイガーさんはボーケンカ？

らしいです！

世界中をタビしてる間だったらしいです。

わたしはマリージョアとシャボンデイしか行ったことが無いから色んな事を聞きました！

世界には色んな島やキセツや天気があつて、空のすごい高い所にある空島や、海のすごいフカイ所にある魚人島や、キョウリュウが住んでいる島もあるみたいです！

海もイーストブルーとサウスブルーとウエストブルーとノーズブルーとグランドライン？とカームベルト？で分けられてるみたいです！

さらに、レッドライン？って言うところに私たちが住んでいるマリージョアがあつて、レッドラインは島じゃ無くて大リクで、世界を一周してつながってるみたいです！

どれも本で読むよりも、タイガーさんに聞いた時の方が楽しかったです！

わたしもいつか自分で空をトンで、世界中の島や天気を見て回つて、一つの本にまとめてみたいです！

だって、それぞれの海にある島は書いてあつても世界中の島が書いてある本は無いからです！

マリージョアのこととはどの本にも全部書いてないし、わたしならわかるからです。

だけどタイガーさんが言うには、そこそこ強くなきゃ海ゾクたちにやられちゃうらしいです。

タイガーさんはすごい強いからボーケンカをやるみたいです。  
わたしも強くなって、海ゾクなんかにはやられないヨウになりたいで  
す！

タイガーさんともっと話したかったけど、お父さんが来てオコられ  
たから、ウーちゃんを乗せて自分の部屋まで戻りました。

タイガーさん、大丈夫かな？お父さんにうたれてほしくないな。

もっと色んな世界の事を書きたいけど、眠くなってきたから寝ます  
！

おやすみ！

## 第10話 友達との日常

今日で10日目です！日記を始めて10日目です！

キリがいい10日目！一週間だとヨービがピッタリだけど、10日目は数字がピッタリだから好きです！

今日はウーちゃんが来たり、アクマの実を食べたり、タイガーさんと話したり、色んなことが変わって、楽しくなった毎日について書きます！

日記を始めて2日目に書いたことと同じことは書きません。

同じことも書きちゃうと、それだけで見開きがいっぱいになっちゃうからです！

まずは朝おきてからのことです、鳥になれることをお父さんやお母さんに言ってから、ウーちゃんと一緒にわたしの部屋でご飯を食べます！

毎日ご飯のときも一緒です！

そして、ご飯を食べて片付けた後はそのままウーちゃんと一緒にスイーツの人に色んなことを教えてもらってます！

ウーちゃんはわたしがカン字を書けることにびっくりしました。

ビックリしてもすごい、って言ってホメてくれました。

スイーツの人にもホメられたらうれしいけど、やっぱりウーちゃんにホメられたらうれしいです！

少しはなれたから、話を戻して。

お昼ご飯もわたしの部屋でウーちゃんと食べます！

食べ終わった後は、まだ少しウーちゃんのケガが治ってないからスイーツの人と一緒にカードゲームで遊びました！

今日はタツツが近くにいたから呼びました、そしたらタツツが他のスイーツの人を2人つけてきました！

他の2人のスイーツの人の名前はそれぞれ、ツバメとドールって言うみたいです！

それで、5人でダイフゴウやダウトやババ抜きで遊びました！

5人で何回かやってもわたしばかり勝ちます！

なんでわたしばかり勝ちやうんだろう？  
なんでなのかフシギです！

カードゲームで遊んでるとタツツーが

「もしかしたらコーウンになったかもしれない」  
って言いました。

わたしは少し考えてからこう返しました

「アクマの実なのかなあ？」って。

そしたらスーツのみんなは声をそろえてこう言いました

「ああ、それかもしれない」って。

コーウンの鳥ってなんだろう？

わたしは金色や色んな色がある鳥だから、コーウンの青い鳥じゃありません！

よくわからなかったけど、カードゲームで遊んでたからつづきをやりました！

ウーちゃんも、よくわかってなかったみたいです。

スーツのみんなは、わたしがどんな鳥なのかわかったのかな？

話を戻して、カードゲームで遊んだ後はスーツのみんなとは分かれて、ウーちゃんと一緒にタイガーさんのところに行きます！

やっぱりウーちゃんを乗せて行きます！

タイガーさんの話してくれる世界の話はとってもおもしろくて、楽しいです！

タイガーさんと色んな話をしているとフシギな人達がフシギそうな目で見てくるけど少し少なくなってきました。

そんなにフシギなのかな？

ちなみにタイガーさんが居ない時は外で自由に空を飛びまわりました！

空から見るマリージョアはすごいおもしろくて、すごく大きなお城の方まで行きました。

わたしの家よりもとっても、とっても大きかったです！

そんなすごく大きなお城の中にミドリ色の二ワがありました！

こんなに大きなお城がマリージョアにあったことを初めて知りま

した！

でもなんでこんなに大きいんだろう？

それで少し見たらカエりました。

やっぱり雨の日はウーちゃんとタツツーやツバメとドールとかの  
みんなで遊びます！

こんどはタイガーさんもつれてこようかな！

なんだか、みんなとカードゲームで遊んだら眠くなります！

なんでだろう？

眠いからもう寝ます。

おやすみ！

## 番外編1 役員の内心

俺の名はタツツーだ、マリージョアで周囲からは異端児と呼ばれてしまっている、ある女の子の世話係の1人だ。

因みに世話係は全員で俺を含め6人居る、2人づつに係を分けて3つの班作り、その3つの班で付き人・部屋や廊下の掃除・物の用意などを当番制で二週間で回すんだ。

シリカ様の誕生日から二週間は俺とドールが当番だな。

そして、ツバメ先輩ともう1人のアント先輩は物の用意、残りの先輩達は掃除だ。

現在朝六時、ある女の子、もといシリカ様の朝の身支度に必要な物を揃える為この時間から働き出さなければならぬのだ。

コンコン

「おはようさんタツツー、仕事だ」

「おはようございませすツバメ先輩、わざわざすみません」

もうこんな時間か。

この人は俺らの先輩でありシリカ様の世話仲間だ、しっかり者で毎朝部屋まで呼びに来るのだ。

さて、さつさと黒スーツに着替えて向かいますか。

向かっている間に何故シリカ様が異端児と呼ばれてしまっているか説明しよう。

まず最初に、シリカ様はハウセキ家の第一子として産まれてきたんだ、だが好奇心旺盛で色んな物に触りそれがどんな物なのか、なんでこんな事が起きるのか色々聞いてくる。

此処までなら普通によくあるから良いんだ、問題はここから、色々聞いてくる娘に手を焼いた母親であるハウセキ・ルビー様はなんと娘を嫌い、いつしか触る事も見る事さえもしなくなり。

父親であるハウセキ・ダイヤ様は産まれた当時からもあまり関心が無かったみたいなんだ。

そんな中、3歳児を放って置けるはずが無い俺達役員は元々の世話係の他の先輩方3人に加えツバメ先輩と俺とドールの3人が配属さ

れたんだ。

元々みんな別々の所から来てて、俺とドールはシリカ様が産まれた辺りで三年間別の世界貴族の屋敷で、ツバメ先輩は産まれる二年前からホウセキ家の屋敷で。

因みにツバメ先輩はCP5から来たらしい、ドールはCP2から、俺はCP7からだ。

他の先輩とは残念ながら大して仲が良く無くて余り込み入った話は出来ない。

思いつきり話が逸れたが、もうシリカ様の部屋の前に着いたから一旦終わらせる、集中し無いとな。

そーと扉を開ける。

「起きてるかな？」ボソ

最近シリカ様の奴隷として連れて来られたが友達認定してるウリエルちゃんも新しく隣に置いたベットで寝ている、ウリエルちゃんの方はドールに任せてある、まだ来てないが洗面台に向かっている間に来て、また別の所にある洗面台に向かうだろう。

そっちは20mとちよつと近い。

そんな事よりも起こさないとな。

シリカ様が眠っている方のベット脇に近づいて言う

「おはようございますシリカ様、朝ですよ」

「ふにゅ〜……」もぞもぞ

少し布団が動く。

ならもう一度話しかけるか。

いつもの事だけど、6時10分位にはスルつと起きれるって凄いなと思うんだ、だって5歳になったばかりだよ？

「シリカ様、起きてますか？」

「うにゅ〜」もぞもぞ

掛け布団が少し捲れて、深い青色の髪がチラ見する。

「おはようございますシリカ様」

「うにゅ〜、おはよ〜」

掛け布団が半分捲れ、上半身を起こしている。

いつも通りに可愛い、少し髪の毛が跳ねても自然と笑顔になるぜ、親馬鹿ってこんな気持ちなんだな。

親じゃ無いけどな、でも世界貴族だって事を偶にうっかり忘れる事がある。

落ち着け、平常心を保つんだ俺！

幾ら抱きしめたい程可愛くてもやったら事件になるぞ、落ち着け俺！

少し間を置いてしまったが声を掛ける。

「では、歯を磨いて顔を洗いに行きましょう」

「はーい」

元気の良い返事が返ってくる、少し眠たそうだ。

洗面所までシリカ様と歩いて行く、毎朝少しの距離だったら能力を使わずに歩いて行くと決めているようだ。

実際部屋から洗面所まで30mしか離れて無い。

因みに俺達世話係の部屋からシリカ様の部屋までは300m、微妙に遠いんだ。

そんな事を考えている内に、ツバメ先輩達が用意してくれてる洗面台に着く。

やはり先輩達の置き方は見やすくわかりやすいな。

着いたらシリカ様は用意された物を使って全て自分でやってくれる、ただ俺達付き人は見守ってるだけだ。

ルビー様とダイヤ様は付き人にやらせてるって噂を偶に聞く事はあるけどな、正直シリカ様を見てると信じ難い話だ。

そうだ、さっきの何故異端児と呼ばれてしまったのかの話だけど、簡単に言えば何にでも興味を示し、本にも興味を持ったから俺が堪らずに読み書きや計算を教え始めたからだ。

俺がやってからシリカ様が他の人にも勉強を教えて欲しいとねだった結果、シリカ様の世話係総出で教える事になりドンドン覚えたって事だ。

だってスポンジみたいに凄い勢いで理解して吸収して行くから教えてて凄い楽しかったからつい。

それともう一つ要因がある、外で思いつきり身体を動かして遊ぶ事だ。

何せ普通の世界貴族や裕福で奴隷を求める様な王族の子供達は奴隷達で遊ぶからだ。

ましてや木登りなんて貴族の子供でもやら無いような事だつても関係してると思ってる、楽しんだけども怪我をする方が一大事と捉えられるから大人達の間では暗黙の了承と化している。

そしてなによりも一番の要因は、奴隷や私達や同じ世界貴族の事を同じ人間として見てくださってる事だ。

シリカ様奴隷として来たけど友達認定したウリエルちゃんには天駆ける竜の蹄のマークの世界貴族の紋章が焼き付けなかったし、付けさせ無かった、これと普段の言動から推測したのだ。

普通なら世界貴族は世界の創造主の血を引いているという事から、どんな地位に居る人でもある程度意識的に区別しているのだが、シリカ様はその意識の壁なんて最初からありませんでした。

そんな事言ったら、徹底的に特別だつて事を植え付けろと言われるからな、そんな洗脳じみた事をしたく無い俺達は自然な様に黙っているんだ、内緒だぞ？

おっと、丁度区切りの良い所でシリカ様が朝の支度を終えた様だ、次は部屋で朝食を食べさせないとな。

そう思いシリカ様に声を掛ける。

「シリカ様、部屋に戻り朝食を食べましょう」

「はい、きよーはどんなのが出るの？」

「今日はパンにベーコンエッグを乗せた物とコーンスープです、さあ部屋に戻りましょう」

「はい、ねえ甘いものはないの？」

歩きながら聞いてきた、ちよつと残念そうな顔をしてくる。

うん、従うに決まってるだろ、可愛いから。

「なら、ヨーグルトも食べ終わる頃には用意しておきましょう」

「わあ、ありがとう♪」

一気に花が咲いた様な輝く笑顔になった。

可愛いなおい！

俺はもうこの笑顔を見る為に働いていると言っても過言では無い！

「喜んでいただき嬉しく思います」

ちよつとテンション上がって敬語変になってないよな?!

おつともうそろそろ部屋前だ、ドアの開け閉めは勿論付き人の仕事だ。

「どうぞ」

「わあ！おいしそう！」

部屋の中には既に二膳の朝食がテーブルの上に並べてあった、流石先輩達だ準備が早い、しかもしっかりとナイフとフォークも並べてある、素早く綺麗に並べたな。

俺も見習わなくちゃ。

そんな事を考えてる内にシリカ様が席に着く。

着いて少ししてからウリエルちゃんがドールと共にやって来る。

「ウーちゃん、はやく食べよう」

「うん！リカちゃん」

おつと、忘れる所だった。

「タツツとドールもいっしょに言おう」

「勿論です、はい『いただきます』、良く出来ました」

俺はもう食べ終わっているが、どうやら一緒に言いたいらしい、こつちで食う様になってからはいつの間にかこうなっていた。

それにしても

「可愛いな」

小声でドールにだけ聴こえる様に呟いた。

「そつでごわすな」

ドールも同じ様に俺にだけ聴こえる声で返して来た。

この間シリカ様とウリエルちゃんのほんわかムードにドールと共に癒され、ひたすら可愛い所を思っていた。

そうしてたらいつの間にか食べ終わってた様だ。

掃除担当の先輩達も既に部屋に入っている。

「ふう、おなかいっぱい、ウーちゃんは？」

「わたしも、ごちそうさましよー」

「わかりました、はい、『ごちそうさま』、良く出来ました」

その後は先輩達が食器を片付けてから、シリカ様とウリエルちゃんに勉強を教えた、今日の範囲は掛け算のテストと割り算の導入だ、スラスラ進んでここまで来ちゃったよ、凄いだろうちの子。

その間ドールは後ろで見守ってた。

その後の昼食は朝食と展開はほぼ変わり無いが、俺とドールは交代で食べに行った。

昼食を食べた後は外が雨だった事もあり、暇だったシリカ様にカードゲームに誘われたから、近くで晩ご飯が作り終わるまで暇を持て余してたツバメ先輩と自分の部屋に戻って休憩を満喫してたドールを呼んでシリカ様と遊んだ。

シリカ様は悪魔の実によって幸運になって勝つてばかりで申し訳ないと思ってる様だ。

確かに気になるが幸運は良い事だろ、こっちは負けても気にしないから誇って、ウリエルちゃんはなんだかんだ言って強く普通に勝ちギリギリまで行き、互角の戦いをしている。

晩ご飯も昼食と同じ感じで交代で食べに行く。

食べた後は片付けてから、シリカ様は本を読んだり日記を書いて、ウリエルちゃんはその間本を読んでいる、偶にシリカ様と此処の本の保存部屋に行く様だ。

まあ、保存とは名ばかりの職員も使える図書室の様な部屋だ、世界貴族は余り本は読まないらしいけどな。

そしてシリカ様が書き終えたらウリエルちゃんと共にベットに行って寝る。

少し覗いたら寝顔が可愛いものって、少し過ぎしてから、護衛兵と交代する。

交代したら残りの仕事を終わらせて部屋に戻る所だが、一旦部屋に戻らずに世話係の交流場みたいな所でツバメ先輩とドールに会いに行ったんだ、勿論情報交換の為に。

そして交流場みたいな所でスーツを未だにピシッと着てるツバメ先輩と、上衣は完全に脱いで片手に持つてるドールが居た、俺は少し着崩している。

「お疲れ様タツツー、シリカ様は寝たか？」

そんなツバメ先輩から労りの言葉を掛けてくれる。

「勿論ですツバメ先輩、今日もぐっすり寝てます」

「ならば、姫君の御部屋の後片付け等は終わったでござすか？」

ドールが確認する様な感じで聞いてきた。

「ドールの分まで終わらせて来たから安心しろ」

と少し嫌味を混ぜて返す。

「うむそれは良かったでござす」

嫌味に気付かず笑顔で返される、まあいつか。

そういやあの悪魔の実騒動の事言ってなかったな、言っておくか。

「そういえばツバメ先輩、この前シリカ様が悪魔の実を食べたんですよ」

「ああ、知っている、この前アント先輩達がシリカ様が鳥になって飛んでると言ってたからな」

「えっ、姫君はいつの間にも鳥になっておられたのだ?! 我輩の調査不足であつた、すまんタツツー殿」

ドールが少しシユンとしたから安心させるか。

「いや俺は大丈夫だ安心しろ、話を戻して、シリカ様が能力を自覚した日に、俺後をついて行くだけでしたけどシリカ様と一緒にルビー様とダイヤ様に報告に行つて来たんですよ」

「大丈夫だったか? 1ヶ月でクビになら無いよな？」

ツバメ先輩、その発想は酷いです言われてません。

「だから俺は何も罰を受けてませんってツバメ先輩、だけどシリカ様に向けられた視線と言葉の冷たさに心が凍り付きました」

「母上と父上はなんと返したでござすかタツツー殿！」

「ルビー様は呆れた様な射抜く様な目線を向けてたよ、本当に食べた事を確認するとどうでもよさそうにそっぽを向いた。ダイヤ様は疑って問いかけ、本当だと分かった瞬間凄い勢いで怒鳴り付けてたん

だ」

本当にあんな態度我が子にしちゃうんだって驚いたぜ。

「そうか、初めっから女の子だから家は継がせられないと切り捨てる様に名付けたかと思ったら、悪魔の実一つでこんな事になったんだな」

えっ？名前に家名が入ってないから違和感感じてたけどそうだったの?!

でも今回は防げたから俺のせいだ。

「いや、監視不足だった俺が悪いんだ、目を離さなきゃ食べてなかった」

「そんなに気を落とす事は無いでござす、我輩も同じでござす」

「まあ、監視不足を悔やむよりもまた食べさせないように気をつければ良いさ、誰も過去は変えられないんだし解決案を出して未来で実行してけばいいさ、タツツとドール、な？」

「ツバメ先輩…!」

「ウオオオ!ツバメ先輩!一生ついて行くでござす!」

ツバメ先輩、泣かせないで下さいよ、感動しちゃいます、俺もついて行きたい!

「ははは、そこまで?」

なんかちよつと引かれた、なんで?!

この後もある程度話を聞いてもらい、部屋に戻る頃には11時30になってたとき。

これが俺達世話係の日常の一つだ、それじゃ明日も朝早いんで寝る、おやすみだ!

## 第11話 マリージョア巡り

今日は11日目です！日記を書いていると字がうまくなっている気がしてきました！

今日はウーちゃんと一緒にマリージョアの空をトビ回ってみました！

ウーちゃんはトベないからわたしの背中に乗せてトビました。

ウーちゃんのケガはもうそんなに目立たなくなったから、外に一緒にさんぽに行こうと言いました。

ウーちゃんもさんぽに行きたいって言いました。

うれしかったです！

少しは仲良くなれたかな？

そして、わたしが鳥になってウーちゃんを乗せて部屋の前からお外に出れるドアまでトンで行きました！

どの部屋よりも少し遠かったです。

それで、ドアの外に出てから鳥になってウーちゃんを乗せてトビました。

タツツーはおいて行っちゃたけどマリージョアからハナれなかったです！

思いきって家のでっぺんまでトンでみました、すっごく高くて気持ちよかったです！

クモが1つも無くて、遠い所にある海がキラキラしてとってもキレイでした！

ウーちゃんはこんなに高い所には行ったことが無くて少しビックリしたみたいです、でも少ししたらキレイって言ってました！

明日も海見れるかな？

それで、しばらく海を見たあとはウーちゃんに声をかけてから家と家の間をトンで回ってみました。

風が気持ちよかったです！

どの家も白色でたまに金色があるだけで、ちよつとつまらなかったけど、楽しかったです！

帰るときにちよつと迷つちやつたけど、ウーちゃんが方向を教えてくださいましたから平気でした！

それで、トンでたらねとっても大きい家を見つけたの！

カベの向こうにあつてね、わたしの家よりもすつごく大きかったの！

とっても高くてトンてつぺんまで行ったら、わたしの家のてつぺんに行つた時よりも大変でした。

だけど、すつごく周りが見ワタせてキレーでした！

この家には中ニワがあつて少しホシいな、つて思いました。だけど作れないからガマンします！

そして、周りに少しだけ木が生えてたり、小さめな家？みたいなお店？みたいながありました！

ウーちゃんは少し高い所は苦手なのかな？

でも少しビックリしたあと周りを見て、ビックリしてました。

ウーちゃんが楽しいならいいか！

ウーちゃんはたまにボー、つとどこかちよつとイタそうな顔で考えてる時があるからです。

なんでそんな顔するのかわからないけど、友達には笑つてホシいからです！

来る前になにかあつたのか、なにもわからないけど、今はみんなからちよつかいを出せません！

そして、最初に会つた時ボロボロだったから、楽しんでホシいからです！

少しハナれたから、話を戻します！

それで、しばらく見たあとはお日さまがシズんてきて空がオレンジ色になるまでマリージョアをトビ回りました！

少しはやくトビすぎて、ウーちゃんに止められる事もあつたけど楽しかったです！

ちゃんと暗くなる前には帰りました！

ウーちゃんと友達になれてるのかな？

ウーちゃんも楽しかったかな？

ウーちゃんのケガが治ってきたから、明日は下にある遊びで楽しそうなボール遊びをやるといいな！

カードゲームを覚えてくれた時にやらなかったけど教えてくれたから楽しみです！

ボール遊びをするにはボールを使うんだけど、わたしの部屋に無かったです。

だから、タツツーにタノんでボールを持って来てもらいました！

わたしのアタマと同じぐらいのゴムボールです。

これで明日は遊べます！

今日はずっとトンで眠くなってきたので寝ます！

おやすみ！

## 第12話 外遊び

今日は12日目です！今日も日記を書いていきます！

今日はウーちゃんのケガが治ったから外でボールで遊びました！  
外なのは部屋の中でやるとアブないからです！

そして、ボールをもってウーちゃんと一緒に外に出て2人でキャッチボールをしました！

まず最初はわたしからウーちゃんにボールを投げました。

けどウーちゃんの足元にコロがつちやいました。

だけど、ウーちゃんは拾って投げ返してくれました、取りやすかったです！

だから、わたしもウーちゃんのマネをして投げてみました。

そしたらね、ウーちゃんを取りやすいつて言ってくれました！

しばらくボールを投げ合つて、ナレてきたからタツツも入れて3人で投げ合いました！

タツツはヒザ立ちをしてやってみました、なんでなんだろう？

3人でやった時はわたしがタツツに投げて、タツツがウーちゃんに投げて、ウーちゃん

やんがわたしに投げました。

タツツに投げる時少し高かくて、ちよとむずしかったけど取りやすかつたみたいです！

少し投げ合つてから、今度はわたしがウーちゃんに投げて、ウーちゃんがタツツに投げて、タツツがわたしに投げました。

タツツの投げてくれるボールはすつごく取りやすかつたです。

キャッチボールつてすつごく楽しい遊びなんだね！

今まで一回もしたことが無かつたから楽しかつたです！

ウーちゃんも楽しそうであれしかつたです。

しばらくの間キャッチボールしたら、次は鬼ごっこをしました！

鬼ごっこは1人鬼を決めて他の人は鬼にタッチされないように、にげるゲームです！

鬼にタッチされたら次の鬼になって、タッチされた所で10秒数え

たら追いかけます！

2人だとはまらないからタツツーがドールとツバメを呼んできて5人で遊びました！

だけど、タツツーとドールとツバメは大人だから歩いて遊びました。

わたしはアクマの实の力を使わずに遊びました。

最初はウーちゃんが鬼になって10秒数えてから追いかけて来ました。

一回タツチされかけたけど、にげられました！

だけど、かわりにドールがタツチされて次の鬼になってました。

ドールに何回かタツチされかけたけど、にげられました、今度はカヲをタツチされたタツツーが鬼になりました。

タツツーにはにげられずに頭にタツチされて、初めてわたしが鬼になりました！

がんばってみんなを追いかけて、近くを通ろうとしたツバメの背中に背伸びして、やっとタツチできました！

追いかけるのも楽しかったです！

そして、1人をずっと追いかけるよりも人が多い方に走った方がタツチしやすかったです。

みんな何回か鬼をやって遊んでたらお日さまがしずんで来たからおわりにしました。

もつと遊びたかったけど暗いと遊べません。

楽しかったから明日も遊びほうかな？

わたしとウーちゃんはツカれて家まで歩けるかわからなくて、タツツーとドールにおんぶしてもらって、部屋まで戻りました。

眠かったけどご飯を食べて日記を書くまでがんばって起きました！

今日はウーちゃんとすつごく遊んですつごく楽しかったです！

ウーちゃんもずっと笑ってて楽しそうでした！

今は楽しい心でいてほしいから、みんなで遊んで楽しみたいです！  
誰だって楽しい方がいいと思うからイタそうな顔をしてる人を楽

しくしたいです！

世界中が笑ったらへーわになるのかな？

ワルいことをする人がワルいことをしなくてもいい世界になったら笑えるのかな？

だけど、がんばればできると思います！

今はやっぱり眠いから寝ます！

おやすみ！

## 第13話 様々な奴隷

今日は13日目です！明日も書いたら日記を初めて2週間！今日は空をトバないでウーちゃんを歩いてさんぽしました！

その時に見た色んな人の事を書いていきます。

みんなイタそうだったから笑ってほしいな！

となりの家に住んでいるドンキホーテ・みよすがるどせい、って言う人のドレーの人も大変そうでした。

くろ色とみどり色とだいたい色のカミの毛の3人の女の子とみどり色のカミの毛の男の人です。

他にも色んな人がいっぱいいるみたいです。

みんなかくれて泣いててイタそうな顔をしてるからです。

みどり色のカミの毛の人はかくれてすごく泣いてました、なんでそんなに泣いてるかフシギでした。

みんなミヨスガルドせい、って人のうしろを歩いてました。

その人をお馬さんごっこで乗ってました。

いっぱいケガ？してたけどわたしの家のドレーじゃないから、なんにもできなかつたです。

お馬さんをやってた人はすつごく大きな人でした！

わたしはあんなに大きな人ははじめて見ました！

わたしよりも何倍も大きくて巨人みたいでした！

すつごく大きな人は巨人ゾクなのかな？

次に見た人はうちのしよーめん？の家に住んでいるロズワードせい、って言う人のドレーの人はいつもケガだらけでいつもボロボロでした。

色んな海ぞくのせんちよー？をあつめてるみたいです。

たまにシンブンや手配書で見たことがある人がいてちよつとびつくりする事があります。

1番びつくりした人は1億5000万？ベリーの手配書に描かれてた人です！

そーいえばサギシって二つ名がついてました！

なんであんなによさそうな人が居たのかフシギです！

だけど、見たときはかなしそうで、つらそうな感じがしてました。こーゆーのをげっそり？って言うらしいです、見たときに聞いたらスーツの人が言っていました！

あと、ウーちゃんが家に来る前に遊んでた人の1人が、うちのしよーめんの家に住んでいる人の親です。

名前はチャルロスせいって言います。

でも、遊びがドレーの人によっかいを出すことだけだからあんまり好きじゃありません。

ほかにも遊んでた人は何人か居るけどみんなチャルロスとあんまり変わらないから、そんなに遊んでません。

なんでドレーによっかいを出すとおもしろいのかわかりません！

それに、本で見た遊びを遊ぼうとしても、みんなわたしと遊ぼうとした遊びをつまらなさそうって言います。

タツツーとドルー？の3人で遊んだときたのしかったのに、なんでそう思うのかフシギでした！

本で見た遊びは豆まきとすごろくと羽つきとカルタです！

どれも和の国？に伝わるデントー文化？みたいですよ！

世界の文化って本に書いてありました！

話を戻して、ウーちゃんとマリージョアを歩いてさんぽするのは初めてだったから、ずっとウーちゃんのとたりでいっぱい話しました！

でも、ウーちゃんとさんぽしてたら周りの人からフシギそうな目で見られてました、なんでなんだろう？

そんなことを思っていたら家に着きました！

家に着いた時にはもう6時になってました。

家に着いた後はいつもみたいに過ごしました！

ウーちゃんとのさんぽたのしかったな、ウーちゃんもずっと笑ってたと思います！

そういえば、フシギそうに見てた人つてもしかしてウーちゃんの手になにかを付けたら首ワをつけてないからなの？

なんでドレーの人が取ろうとしたらバクハツしてしんじやう物を  
ウーちゃんの首に付けさせないといけないの？

それに手に何かをつけたら一緒に遊ぶとき動きにくそうだし、何か  
やるときに動きにくそうな物を付けさせないといけないの？

なんでなのかずつとフシギです！

わたしがやっていることは、みんなにとつてはフシギなことなの  
が、なんでなのかわかりません！

わたしたちはマリージョアに住んでてウーちゃんたちは下に住ん  
でる事しか、わたしにはわたしたちとウーちゃんたちのチガイがわか  
らないです！

まだフシギに思ってる事はあるけど眠くなって来て、ウーちゃんも  
となりにつなげたベットの上で呼んでいるからもう寝ます！

おやすみ！

## 第14話 楽しい時間

今日は日記を始めてから6か月目です！

毎日書いていたからページがあと少しになりました！

ページが無くなる前にあたらしい日記チョウを買います！

もう6か月がたつけど今日まで色んな事があつてすつごくたのしいです！

この6か月におきたトクにびつくりした事とたのしかった事とうれしかった事とスーツの人達に教えてもらった事をまとめていきます！

まずは、ウーちゃんが家に来て、今は色んな事を言い合えるぐらい仲良くなつた事です！

はじめはどんな感じで話せば良いのかわからなかったけど、今はどんな感じなのかわかりました！

仲良くなれて良かったです！

それでね、ウーちゃんの背中に生えてる大きな白い羽根がね少しだけ動かせるようになったみたいです！

暑いときにパタパタ動かしたりしてます。

だけど、ドベないみたいです。

ほかに、ウーちゃんができるようになった事があります！

ウーちゃんが少しだけ電気を出せるようになりました！

ウーちゃんとツバメが言うには、エレクトロって言うミンクゾクだけの力です！

そうだ！たのしかった事じゃないけど一番びつくりした事を書きます！

お月さまがまんまるのときにウーちゃんと一緒にお月さまをみました！

そして、ウーちゃんがお月さまを見たら急にコシに届くぐらいカミが伸びて、オオカミの耳もちよつとモコモコになって、目が夕日みたいな色に変わって、尻尾も少しもふもふになって、体が真っ白になってすつごくキレイでした！

その後は、ウーちゃんも少しびびっくりしてたけどお月さまを見ないようにしたら寝ちやいました。

ウーちゃんとツバメが言うには、スーロン化って言うミンクゾクだけがなれるみたいです！

だけどあの時ツバメが言いました。

「ミンクゾクはね月を見るとあんな感じにスーロン化しちゃうんだ、スーロン化は本当はあばれちゃうぐらい、あぶないしもつとはげしいんだけどウリエルはハーフだからアレだけで止まったんだ」

なんでお月さまなのか、よくわからなかったけど、ウーちゃんが見ようとしないうちにも見せないように気をつけてます！

それにその間、ウーちゃんは少しつかれるみたいです。

ウーちゃんはウーちゃんのお母さんがなってるのは見たことあるけどなるのは初めてみたいでした。

やっぱり、ウーちゃんのお母さんは大丈夫だったのかな？

ウーちゃんの話をついばい書いてあげたけどわたしの話も書きま  
す！

ウーちゃんは色々な事ができてすごいな。

わたしもできるようなった事とわかった事も書きます！

なんと！どんなアクマの实の名前とどんな力なのか分かりまし  
た！

アクマの实の名前はトリトリの实で幻の鳥のホーオーって言うみ  
たいです！

スーツの人達が探して教えてくれました！

そして、力は自分をコーウンにしたりします！

他の人もコーウンになるのかな？って思ってコーウンになれ！つ  
て強く思ったらコーウンになりました！

だけど、あんまり好きじゃないなって強く思うとその人はフコーに  
なりました。

わたしはトブだけでも良かったけどコーウンになれ！って思った  
らその人はコーウンにできるから一石二鳥？です！

だけど、コーウンにするとちよつとつかれます。

そういえば、コーウンになれって思った時に体から金色のキレーなオーラ？みたいな物が集まって一つのボールになってその人に当たったみたいです。

フコーになれって思った時はムラサキ色みたいなクロ色みたいな色になるみたいです。

ドールが言っていました。

ほかには、わたしが百の数と十の数と一の数があるワリザンをできるようにになった事と、ウーちゃんは形の問ダイがすぐくできるよになつてます！

形の問ダイは作ってみないとわたしはあんまりわからないです。

世界の事はタイガーさんがいっぱい教えてくれました！

なんでこうなるのかすぐくわかりやすいです！

色んな島に行った事があるタイガーさんも行った事がない島がまだいっぱいあるみたいです！

だけど、タイガーさんはどの島でもマントをつけたみたいです、なんでつけなきゃいけないのかわかりません。

フツの同じ人なのに、ヒレがあつてただ赤いだけなのにな。

話を変えて、海ゾク王が行ったラフテルってどんな場所なんだろう？

いつか行つてみたいな、どんなたのしい事があるのかな？

ラフテルだけじゃなくて世界中をまわってみたいな、たのしい事がいっぱいあるよね。

だって、タイガーさんは話してる時すぐくたのしそうに見えたからです！

世界中をまわったら一つの本にまとめてみんなに教えたいです！

世界中をまわったたのしい話をいつかしてみたいです！

いつのまにか見開きいっぱいまで書きちゃったから、今日の日記はおわります！

おやすみ！

## 番外編2 魚人の冒険家

おれは一体今まで何を見て、何をされているのだ？

そもそもシャボンディ諸島で捕まりかけた時何故億越えの賞金首がおれを助けたのだ？

結局冒険を終え帰還する時水に濡れても構わないお土産を選んでいたら捕まってしまったがな。

おれは運悪く落札され奴隷になってしまった。

落札した奴は5歳の女の子を連れて家族でオークションに来た天竜人の一家だった。

どうやらおれ以外にも子供用にとあまり見かけないミンク族の女の子を落札していたらしいが、本人は友達のもりで頼んでみたいだ。

おれのような魚人以外の人間も奴隷として連れられていたな。

レッドラインをゴンドラとか言う物で登り何度も扉を超え奴等の家に着いたが、移動中に人間が人間やおれ達魚人に乗っている胸糞悪りい光景を見た時は異常だと思っていた、思っていたかった。

初めは人間が人間を買い飼うなんて馬鹿げた事を何故此奴らはやるのか不思議でもあり不気味で理解し難かったが、奴等を見ている内に今となっては唯のサンドバッグとしてしか見てないと言える。

おれは落札した人間に酷い仕打ちを沢山受けて来た。

殴る蹴るは当たり前、時には鞭で打たれ、銃で撃たれ、刀で切られ、大量の海王類が住む巨大な水槽に入れられ、拳銃には乗り物として扱われた。

これらの仕打ちよりもかなり酷い、丈夫だからとエラに空気やそれなりに希少と聞くヘリウムガス等を吹き込まれるなどの仕打ちもあったな、あれは死ぬかと思っただぜ。

徹底的に人として、人間としての威厳が奪われ、崩れ落とされる行為の数々をあいづらは平然とやっていった。

何度でも逃げようと思っただが、首輪は鍵で外す以外は爆発する、取ろうとして爆発した人間を何度も見てそれが脳裏を駆け巡り何度も

思い留まった。

そんな光景を見て何処どなく面倒臭そうだが楽しげに嘲笑う人間も見た。

此奴らは何故同じ同士であるはずの人間が死んでも笑えるんだ？

いや、こんな馬鹿共と同一視される人間の尊厳を奪いかねないな。

創造主の末裔だからと持ち上げる世界政府が此奴らを付け上からせるのか、それとも逆から入って今になったのか、こればかりは考えども答えは出ないな、北の海の言葉を借りるとするならば「卵が先か鶏が先か」だな。

だがどうしても同一視してしまう、乙姫さんはわかっているのか？

頭では理解しても感情は受け付けられねえ、この感覚を。

狂気に満ち溢れた初めての世界だと思った、だがたつた5歳のシリカという女の子はおれを純粋な、魚人島の子供達のような興味がある様な目をおれに向けて色々聞いてきてる。

名前を聞かれ、種族を聞かれ、どんな人が聞かれ、海にはどんな世界が広がってるか聞かれ、どんな冒険があつたのか質問攻めにあつた。

おれは地上において見た目や種族で差別をしない人間を初めて見て感じた、それにこんなに人間の狂気と闇で満ち溢れてる場所で己の芯を強く持ち狂気にも闇にも染まらぬ彼女を見て触れ合つて一筋の希望を今は確かに感じている！

彼女ならこれから今のまま綺麗な心を保っているだろう、何も確証なんてものは無いが確信している、この子なら魚人島の皆を地上で安全に暮らさせると。

それにいつも、毎日の様に酷い怪我を負わせられるおれや他の珍しい種族の人の怪我も治すように医者に言ってくれる。

そーいやあの子の奴隷として買われたウリエルと言う子には、おれに刻まれた忌々しい天竜人のマークが刻まれてるのを見ないし、首輪も手錠も付けていない、いつでも逃げ出せる筈だか、いつもシリカと共に笑い楽しみ遊んで勉強も頑張つてとても生き生きしている様子は、余りにもこの狂気の世界では浮いて見えてしまう。

そんな奇怪な毎日を過ごして5ヶ月ほど経ったある日、なんとシリカが廊下に落ちてたと言いおれの首輪と手錠の鍵を拾いおれに渡して来たのだ、何が目の前で起きてるのかわからなかった、何故おれに渡すのか、おれに渡してあの馬鹿親に怒られないのか。

いつの間にかそんな事を考えてしまう、自分の事よりもシリカが、一筋の光掻き消されてしまわないか、と言う不安の方が大きくなっていった。

不安になったが折角の好意で得た脱出のチャンスを逃す程諦めないし馬鹿でもない。

それにシリカが大きく成長した未来、あの悪魔の実の能力を使い運を振り撒きながら世界中を飛び回る黄金の象徴になるかも知れない、ほぼ確信に近い予想を魚人島に伝える必要があるからな。

もしかするとシャーリーが予言しているかもしれないから帰ったら寄らないとな。

さて、後は時期を見ながらじっくりと念密に計画し此処マリージョアから脱出しないと、魚人島で皆んな帰りを待っているだろうから、この冒険家フィツシャー・タイガーの持つて帰る地上の物と冒険話のお土産を。

脱出した後はレッドラインを登り他の奴隷となってしまうた人達を纏めて脱出させてやるか、それならいつその事大暴れしよう、兎に角何事も脱出しないと始まらねえ。

## 第15話 魚を逃す

今日は6か月と1日目です！今日も日記を書いていきます！

今日はタイガーさんがどこかに行っちゃいました。

夜にマリージョアから魚人島に帰ったみたいです。

最後にタイガーさんに会ったとき帰るって言っていました！

タイガーさんが帰ってさみしいけど、毎日お父さんとお母さんに何かされててポロポロになつてたから居たく無くなつたのかな？

イタそうだったから帰って良かったと思います！

マリージョアはすつごく高い所にあるから大丈夫だったかな？

だれかに見つかつて無いといいな。

魚人島は海底にあつて魚人や人魚じゃないと行きづらいから会えないのかな？

いっぱいいっぱいまた話したいです！

でも、タイガーさんが居なくなつたからすぐには下の海のぼーけんの話聞けなくなつちやつたな、シャボンディ諸島以外の話たのしかつたな。

だけど、タイガーさんが最後に教えてくれました！

「人に聞いたぼーけんよりも自分で行つたぼーけんの方が何倍もたのしいぞ、お前にはりっぱなつばさがあつて自由にトビ出せるじゃねえか」

たしかに、わたしにはつばさがあつて空を自由にトべる、それに  
行つてみたい！

だけど、お父さんとお母さんがゆるさない、ぜつたいに一緒じゃないといけない。

わたしはだれかと行きたいけど、それはお父さんとお母さんじゃない、なんかちがう。

それに下にはこわい海ゾクがいっぱい居るみたいだから、周りとか  
がうわたしだからみんななこわい。

強くないとみんなとはなれちゃう、どこにも行けなくなつちやう、  
何もできなくなつちやう、ウーちゃんと遊べなくなつちやう、話せな

くなつちやう、みんなこわい。

だから行けない、行きたいけど行けない、いけないことだから話をタイガーさんにもどして。

タイガーさんが居なくなつたのにお父さんとお母さんが気づいたのは、わたしがお昼ご飯を食べた後だったです。

なんで居なくなつたかフシギそうだったけど、でんでん虫でわたしがカギを拾つたのがバレちゃいました。

お父さんとお母さんにすつごくおこられました。

お父さんが言いました

「なんでわちきのお気に入りのドレーの魚人を逃したんだえ?! お前はワルイ子だえ!」「D」の一ゾクに食べられてしまうえ!」

すつごくお父さんがこわかつたです!

なんであんなにおこるのかわからないです!

そしてDの一ゾクって、ガープさんに食べられちゃえつて事なの?

ガープさんじゃなかつたらだれに食べたれちゃえつて事なの?

もしかして手はい書で見たシトリンって人?

わかんない。

それに、タイガーさんはやさしくて、きずつける人の子どものわたしにも色んな世界のことを教えてくれたのに、なんでイタそうな事をしてるのに帰つちやつたらおこるの?

みんなみんなフシギです!

アクマの実を食べた時はなにも言わなかつたしいつもわたしと話さないお母さんが今日は話しました。

フシギだつたけどりゆうがわかりました。

お母さんが言いました

「アクマの実を食べる事だけじゃあきたらずわちき達のお気に入りの魚人のドレーを逃すなんて許せないあます! こんなきみのワルイ子はクズ人間共に世話させてあげるあます!」

お母さんがなぜかすつごくこわくて泣きそうだったけど、なぜか泣いちゃつたらすつごくおこりそうで泣きませんでした。

なんであんなにこわかつたの?

おこられたあとウーちゃんとスーツの人達はやさしくしてくれました！

すつごくうれしくてウーちゃんにだきついちゃいました！

お母さんにあんなにおこられるのは初めてだったからフシギです！

それにわたし達天りゆう人がえらくて、スーツの人達やウーちゃんみたいな下に住んでた人はクズなのか、わかりません！

どこがちがうの？

わたし達は何もしてないのになんでえらいの？

みんなフシギです！

そういえば、お父さんとお母さんがわたしをどこかに行かせたいみたいです、わたしはどこに行くの？

だれに聞いてもだれも教えてくれないからフシギなままでなんかいやです！

ウーちゃんが本を読み終わったからもう寝ます！

おやすみ！

### 番外編3 役員の葛藤

我輩の名はドールというでごわす、この前タツツー殿から此処世界貴族のハウセキ家の現当主ダイヤ父上と御婦人のルビー母上とシリカ姫君がどの様な生活を送って居るかの記録を撮る為の物を渡されたでごわす。

なんでもこの前タツツー殿から試しに初めてみた所良かったと言われ、それから定期的にやる事になったみたいでごわす。

タツツー殿は己のやっている事は仕組みまで記録するかは自由と言ったでごわす。

今日は我輩が記録して行くから、よろしくでごわす。

今週から姫君の付き人の当番が回って来たとツバメ先輩から通告があったでごわすから姫君と御友人の部屋に今向かって居るでごわす。

前にタツツー殿が記録した時に主な仕事は記録してあると聞き説明が不要だから楽で助かるでごわす、流石仕える為の試験をトップで合格したタツツー殿だ。

タツツー殿が我輩よりも早く向かい姫君を連れて行き、その少し後に我輩が向かい御友人を連れて行く、当番が回って来る度に決めるのは面倒だとタツツー殿が決めていたでごわす。

勿論我輩は御友人の担当で満足でごわす、何故なら我輩よりもタツツー殿の方が丁寧で気配りが上手いからでごわす。

御友人というのはウリエル様でごわす。

いつの間にか姫君と御友人の部屋に着いたでごわす、扉が予め少し空いてるとはタツツー殿らしくないでごわすな、もしや我輩に向けての気遣いでごわすか？

ドアを更に開けて中に入りウリエル様の寝て居る側に歩み寄り言う

「ウリエル様、朝ですよ、起きてください」

「うにゃ、もう少しねる」

布団がもぞもぞ動き天使の様に可愛い顔を見せたかと思えばもつ

と寝たいと申すか、だがこの後には姫君とウリエル様の朝食が控えとる、心を鬼にして起こさねばいけないでござすな。

「ダメですウリエル様、起きてください、シリカ様はもう起きて御支度なさってますよ」

「リカちゃんはずごいにゃ、まだねむいよう、でもおきる」

「それでは歯を磨きにいきましよう」

「はーい」

はー、可愛いでござすー!!!

姫君がすっかり起きてるのを言ってみれば影響され素直に起きる姿が健気でござす！

いかんいかん、つい忘れかけるところだったでござす。

ウリエル様の先導をしながら扉を開けて行き洗面台まで向かう。

ふと振り返り後ろを見たらトテトテと眠そうな目を擦りながら歩いて来る可愛いウリエル様！

羽根が大きくバランスが悪いのか偶に転びそうになる所も実に愛らしいでござす!!

頭から生えてる狼の耳も！腰から生えて居る狼の尻尾も！背中から生えている羽根も！全て垂れててなんとも小動物の様な愛らしさは何に例えても例え切れ無いでござす!!

タツツー殿はこのウリエル様の姿を見れぬとは実に哀れなり。

ウリエル様は姫君と違い羽根は有るけど少しばかり動かせるだけで飛べないのでござす。

ウリエル様が来たばかりの頃、多分4カ月ほど前でござすか、ウリエル様からの証言による種族の特徴は月に住んでいてウリエル様の様な大きな翼を持ち空を飛べると。

その少ない情報を全て上に渡しどんな種族で危険性は無いかの調査をしてもらったでござす。

すると何週間か経った頃、ついにウリエル様の種族が判明したのでござす！

その種族の名は「羽翼族」古くから月に住み空を飛び回りながら何かを手助けをしていると、言われて空島に住んでるらしいでござす。

ウリエル様には疑問が多いのですが、一つ確かな事は歴史の彼方に消えた筈の種族と聞いたでござす。

うぬ、もう着いたかと思えばウリエル様がいつの間にかあと少しで朝の支度が終わりそうだったでござす。

ついついやってしまった。

記録して居ると分かつては居るが大丈夫でござすかな？

タツツー殿からは好きにやれば良いと、どんな心情で働いて居るかも確かめるためと聞いとるが、慣れぬでござす。

いつの間にかウリエル様が我輩のスーツの裾を引っ張ってたでござす。

「ドール〜おわったよ〜、もどろ」

「はいウリエル様、すぐに戻りましょう」

水回りを確認してからドアを開けまた部屋まで先導する。

「ねえ！今日のご飯なあに？おなか空いた〜！」

「今日はバターロールとスクランブルエッグにサラダを添えた物でござす」

「飲みものは〜？」

「ホットミルクです」

「わあい！やったー！」

今まで垂れてた物が全てピンツと立ち上がり嬉しそうにパタパタさせて居る。

笑顔も可愛いでござす!!!

癒しは此処にありけり！

部屋の前に着いたからドアを開ける、するともうタツツー殿と姫君は着いていて手招きをしている。

「おまたせ〜リカちゃん」

「はやく食べよ〜ウーちゃん」

「それでは、はい『いただきます』、良く出来ました」

もう完全に恒例行事となったいただきますの挨拶、そして続く現状維持、可愛いからこのままが良いでござす。

「いつ見ても、どんな表情でも可愛いでござす」

「そうだな」

小声で呟けばこれまた小声でタツツー殿が返してくる。

敬語の要らぬ同僚相手に喋るのは気をつけなくて良いから楽でござす。

ずっとこの平和が保たれば良いでござすな。

姫君が悪魔の実を食べたと聞いた時は驚いて現場に1番近くにおったタツツー殿と食べた姫君を案じてたが、今思えばあの程度の罰で済んで良かったでござす。

タツツー殿は1カ月間屋敷全ての水回りの徹底的な掃除で居なくなった時は肝を冷やしたでござす、1カ月間我輩だけで当番が回った時は忙しすぎたでござす。

姫君は1カ月間読書禁止され、代わりに奴隷で遊べと言われてたみたいで、姫君はちゃんと読書禁止を守ったが奴隷で遊ぶのではなく奴隷と遊んでたでござす。

可愛かったでござすな、あの時はいつも会話してたタイガーという魚人だけではなく他の手長族や足長族や蛇首族の奴隷とも話しててほのぼのしてたでござすな。

この景色を見た父上と母上が鳩が豆鉄砲を食ったような顔をしてたでござすから、しっかりと楽しんでる事を伝えたら微妙な顔をしておったでござすな。

遊べと申したのは御二方であらせられるのに、不思議だったでござす。

少しばかり動いてないと思えば母上が急に我輩に

「ちゃんと教育はしてるあます?!」  
と申すから

「しっかりと教育しています」

と返したら大丈夫だったでござす。

流星に二人共罰を受けてしもうたらツバメ先輩方に迷惑を掛けてしまうからでござす。

うぬ?そろそろ食べ終えそうでござすな、タツツー殿は気づいておるかな?

「タツツー殿、そろそろでござす」

「ああ、わかつてるわざわざありがとな」

「気づいていたでござすな、よかつたでござす。」

「ふいふ、おなかいつぱい！うーちゃんは？」

「わたしもだよ」

「あれ？うーちゃん、トマトたべないの？」

「あ、リカちゃん、じつはトマトにがてなの」

「そくなんだ、でも食べないと大きくなれないんだって！」

「そうなんだけどね、ほんとうにダメなの」

「ならわたしが食べてもいい？」

「いいよ」

「やったあ〜！」

「ウォー！！いつの間にか凄く可愛いやりとりが行われてたでござす！！」

「ウリエル様はトマトが苦手とな、しかと記憶したぞ。」

「はあー、可愛い、癒しだ、癒しが此処にある、健気なのがこれまた可愛いな」

「本当にそうでござすな」

「小声でタツツー殿が呟いたから小声で同意を返す。」

「タツツー殿が満面の笑みでありながらあんな崩れ情けない顔をすると、初めて見たでござす。」

「たつつー、ごちそーさましよー！」

「ツ、わかりました、はい『ごちそうさま』、良く出来ました」

「タツツー殿少し反応が遅れたでござすな？」

「可愛いから仕方が無いこととござすが、仕事を忘れる程では無かつたらうに、珍しいでござすな。」

「うぬ？ウリエル様が姫君と少しばかりお話した後、我輩の方に近づいて来るでござすな、何事とござすか？」

「えつと、リカちゃんと話したんだけど、お昼食べるまでドールに聞きたいことがあるからべつべつでいよつて、そしたらよかつたから行く」

なるほど、我輩に相談事がある訳でござすか、ならばいつでも使つて良い部屋に行くでござす。

「わかりました、では図書室で話しましょう」

「うん、わかつた、またねくりカちゃん！」

「うん！またね」

そのまま部屋を出て図書室までウリエル様を先導するでござす。

最近では姫君と二人で新たな本を御所望になってるでござす、確か姫君の御所望する種類は昔の文字だったでござすかな？

現在使われてる公用語は一通り学び、昔の本を読んでみたいと申しとおつたからな。

そしてウリエル様は芸術に関する本であったな、絵が好きで上達したいと申しとおつたからな。

僅か七歳程でござすのに我輩よりも達者なもんだから困つたでござす。

我輩が運動以外はからつきしだからでござすかな？

我輩が特に得意な運動は柔道でござすな、我輩の生まれ育つた島はジユウ島で柔道が盛んな島でござすから勿論柔道をやつたでござす。

少し合気道なる物も覚えがあるが柔道の方が得意でござす。

一応島にボクシングやレスリングがあつたが我輩は興味が無くやらなかつたのも一因でござすかな。

そうそう、図書室には長机とソファや椅子が何個かあつて皆が使いやすい様になつてるでござす。

世界貴族様は使うとあまり聞かんから我輩達役員も使い易くなる様に変化するの当たり前でござす、流石に普通の学校の図書室にある様な本しか置いてないけど、だつた一人の役員の希望だけでは入れてくれないでござす。

世界貴族様の要望ならば幾らでも本を入れてくれるでござす、その分本棚の追加や本を保護する為の下処理に追われるでござすけどな、読める様になるから苦では無い。

要望のあつた次の日の朝までに用意せねばならぬから大量に有れば総動員しなければ間に合わぬでござすな。

ぬっ、もう図書室のドアの前に着いたでござす。

ふと後ろを見るとぼてぼてと歩いてる姿も可愛いウリエル様がい  
たでござす。

追いついてきたからドアを開け近くのソファに座らせ、我輩も隣に  
座り話しやすい様にする。

「それでウリエル様、ご相談とは何ですか？」

「えっとね、わたしの、わたしのお母さんをさがしてほしいの！ずーと  
リカちゃんをしんぱいさせたくなくて言わなかったの、だけどさいき  
んお母さんからもらったお母さんのビブルカードが小さくなっ  
て、しんじやうかもしれないからしんぱいな！」

おっと、可愛らしい悩みかと思えば凄く重い悩みだったでござす…  
これどう返すのが正解でござすか？

とりあえず余計に心配させぬ様すぐに返さねば…うぬ？あそこで  
本を探しておるのはツバメ先輩ではあらぬか？！

よ、よおし何故おるのはわからんがツバメ先輩に聞いてみるでござ  
す。

「その悩みは色んな人に聞いてみれば良いと思います、我輩ならば皆  
に相談し助けを求めます、一人で抱え込む必要はありませんよ」

「でも、だれにそうだんすればいいの？」

「あそこにツバメさんが居るので連れてくるから待っててください」  
「うん、わかった！」

これは経験が深いであろうツバメ先輩に意見を聞けるとは、驚きの  
幸運が舞い込んできたでござすな。

ツバメ先輩に十分近付いてから言ったでござす。

「ツバメ先輩助けてください、ウリエル様の母君のビブルカードが小  
さくなってるらしいでござすどうすれば良いと思うか？！」

「おっおう、そうか、ウリエルちゃんのお母さんのビブルカードが縮ん  
でるんだね、そうか、そうか、うーん…」

流石にツバメ先輩でも頭を抱え込んでござすな…だがウリエ  
ル様の前に連れて行かねばならぬな、強引に引っ張るでござす。

「とりあえずウリエル様の前に参ろう、話はそれからでござす」

「わかった！わかったから落ち着け、手首をぐいぐい馬鹿力で引つ張らないでくれ」

「うぬ、すまないでござす」

ツバメ先輩に注意され慌てて手を離れたでござす、気をつけなければならぬな。

「ウリエル様、ツバメさんを連れてきました」

「あ！本当だ！本当にいたんだね」

「本棚の裏に居ましたから気付かないのも当たり前ですよ、ウリエル様」

「そんなことよりも、これがお母さんのビブルカードなの！前はこのくらいあったの！」

ウリエル様は両手の平一杯に広げて乗せて見せてからビブルカードを大切に握り締めながら腕を広げ元の大きさを精一杯表したでござす、その姿が可愛い過ぎて耐えるのが大変だったでござすな、ツバメ先輩も必死の形相でウリエル様を見てたでござす。

頷いていたでござすから返事せねばな。

「今も少し燃えてますね…ウリエル様は母上を助けたいですか？」

「もちろんだよ、ミンクぞくのことたつくさんおしえてもらったし、またほめてほしいから！たった一人のお母さんだから！また会いたいのに！」

「そうだったんだねー、お母さんとはどう別れたんだい？」

ツバメ先輩は気になる所を聴きますな、確かミンク族は巨大な動くゾウの上で暮らしてる筈で羽翼族は空島で暮らすと聞いていたでござすのにたった7つの子供が一人奴隷オークションに出されておつたからな。

「もともとはノースブルーのフレバンスって国にすんだの、とっても白くてきれいな町だったけど白いのが体にわるいつてお母さんが言ったからひっこすことになったの、だからお母さんがむかし住んでいたゾウに行くことになったの、でもお父さんは空にかえるつて言ったからわたしとお母さんだけ向かったの、でも舟がおそわれちゃってつかまっていつのまにかここにいたの！」

「あらら、海賊に襲われちゃったのかー、だから傷だらけだったんだね」

「エレクトロ口つかってにげようとしたけどお母さんが切られちゃてこわくて立ってたらつかまっちゃた」

「生き延びて良かったね、海賊について何か覚えてるかい？」

「えっとね、カエルみたいなマークだったよ」

「そうなんだね、さてとドール大丈夫か？」

「うむ、大丈夫だ」

ツバメ先輩に聞かれたからしつかりと答える。

それにしてもウリエル様がフレバンス出身だとは驚くべき事実でござすな。

「ドール？」

「よし、しかと聞き留めましたぞウリエル様、それではそのビブルカードを我輩に預けてください、母上を助け連れて来るための手掛かりはそのビブルカードだけです」

「本当にいいの？ドール」

「うむ、もちろんです」

「うん……わかった！やくそくだよ?!」

「うむ、生きている限り必ずしも会わせませす、ツバメさんもいいですか？」

「はあ、良いよ、すぐに手配するよう呼びかけて来る、シリカ様の御友人の要望なら否定しないだろうし」

「ありがとうございます」

「平気だ」

「やったあ！ありがとうございます！ツバメもドールもかっこいいな」

なんとかなりそうでよかったでござす、これもツバメ先輩が乗り気になってくれたおかげでござすな。

「それじゃあ！リカちゃんとあそびに行きたいな！」

「わかりました、お部屋まで戻りましょう」

そう返し部屋まで戻り姫君とタツツー殿と合流し、共に外に行き思う存分ウリエル様と姫君を遊ばせたでござす。

遊ばせてる最中いつの間にか我輩が空を飛び回ってる姫君が鳥のまま急降下し飛び込んでくるのを1人で受け止める事になってるでごわす、何故ゆえタツツー殿は木の下から眺めてるでごわすか?!  
うわああ! ヤバイでごわす、あと少しで姫君が降りて来そうでごわす!

「いっくよー! ドール!」

「とりあえずボールを丁寧に受け止める勢いで待ってます!」

姫君の体に我輩の手が触れる瞬間、お腹辺りに上手いこと手を入れる事に成功しボフツと音がしたでごわす。

初めは無事に受け止められるか心配だったでごわすが、このくらいならば余裕でできるでごわす。

それにしても姫君の羽はふつかふかのふわふわでありながらサラサラしておって凄く触り心地が良くずっと触っていたくなつたでごわす、悪魔の実は羽や毛を常に最高の状態で保ってくれるでごわすのかな?

とにかく本物の鳥の様に飛べ、羽は最高級の羽毛布団の様にふわふわしてふとは侮れんな。

「たのしいー!」

「シリカ様が楽しいのなら満足です」

「もう一回やってもいい?」

「勿論です、満足の行くまでやってください」

「やったあ〜!!」

我輩の腕の中でモフモフな姫君が笑顔になったり首を傾げ期待する様なキラキラの眼差しで見るとは、耐えられぬ、何故ならば可愛いからでごわす!!

タツツー殿が羨ましそうな顔で見てるでごわすな?

木の下でも姫君ならば無事に突っ込めるだろうが、残念だなタツツー殿、姫君はすっかり我輩がちゃんと受け止められると確信しこっちにしか来ないでごわすぞ!

おや? タツツー殿は凄く凄くと言っていたウリエル様に近付いてるでごわすな、暇だから2人で遊ぶ様でごわすな、丁度いいでごわす。

この後数えきれぬ程受け止めたおかげか、物凄く疲れたでござす、明日は筋肉痛になるでござすな：

だが悔いなどある訳無いでござす！

姫君が可愛いから！

だから今日は姫君とウリエル様の世話を終えた後直ぐに我輩の部屋へ戻り直ぐに寝るでござす！

今は我輩の部屋で最後の記録をしてるでござす。

それではおやすみでござす！

## 息抜き編 絵本

「うーちゃん、その本どんな本なのー?」

「んーとね、こきよ様の海の本だよー!」

1人の青髪の少女が本を何冊か抱えて駆け寄って来る銀髪の少女にこう問い掛け、うーちゃんと呼ばれた銀髪の少女はそれに答え件の本を二つとも掲げる。

「そーなんだ! えつと、うそつきのーらんどに、うみのせんしそらつて本なんだね!」

「よくよんでたからねー、またよめるってびっくりしちゃった!」

「へー、どんなはなしなのー? きになるなあー!」

銀髪の少女ことうーちゃんは少しの間掲げた後青髪の少女の隣に脚を伸ばして座り、本についてお喋りしつつ読み聞かせの様に2人で本を開いていく。

「まずはー、わたしがだいすきな、うみのせんしソラから言うねー! いー? リカちゃん!」

「うん! たのしみー!」

「うみのせんしソラはねー、ソラって言う女の人がアクのぐんだんジェルダブルシックスをやつつける話なの!」

「それでそれで?!」

青髪の少女はとても気になる様で身を更に近づけながらうーちゃんを急かし聞いていく、うーちゃんと2人で開いたページにはキャラクターが全て並んでおり、うーちゃんは指をさしながら説明しようとして空いている左手を本に近づける。

「ジェルマにはやっかいなのが5人いてねー、このピンクのがポイズンピンクはどくを使ってたかあのー!」

「どくでたおせないテキなの?」

「そうだよー、よく分かったねー!」

「えへへ」

褒められ太陽の様な笑顔で照れる青髪の少女。

「ソラもどくにやられかけたけどなかがたまたまげどくぎいをもつ

「ていてたすかつたんだよ〜！」  
「どくかく、なんだかドクドクのみになってるな〜」  
「そうだね〜、それじゃあ次いくよ〜！」  
「うん〜！」  
「それでね、この赤いのがファイアレッドでほのおを使ってたたかうの〜！」  
「ほのうか！つよそうだね〜！」  
「ボスより弱いけどいちばん強いみたいだよ〜！」  
「ほのうなら〜メラメラのみにしてる〜」  
「そういえばそうだね〜！」  
「次は〜？」  
「次はね〜、この青のがデンゲキブルーででんきを使ってたたかうの〜！」  
「しびれそうだな〜、はやいのかな〜？」  
「そのとおり！とつてもはやいよ〜！でもそれを先よみしてうごくツラもこれまたね〜！」  
「そ、そういえばゴロゴロのみになってるよね〜！」  
「わあ！えつと〜、そうだね〜」  
「それじゃあこのくろいのは〜？」  
「この黒いのはね〜ステルスブラックでどうめいになれるの〜！」  
「見えなくなっちゃうの!?!どうやってたおすんだろう？」  
「こうげきされたらつかんでたおしたりしてね〜、他にもすなやこむぎごをかぶせて見えるようにしたりするの〜」  
「すごいね！わたしだったらとつきに思いつかないな〜！」  
「でしょ〜？たたかえるだけじゃなくてかしこいからあこがれてるの〜！」  
「へ〜、そういえばどうめいになれるならスケスケのみになってるな〜」  
「たしかに〜、そうだね〜」  
「それじゃあこのみどりは〜？」  
「この緑がウインチグリーンだよ〜！うでやゆびがのびたり力が他の4人よりもつよいの〜！」

「へ〜!のびてくるってさげづらいね〜」

「でもね〜!さけないわけじゃないからね〜」

「のびるなら〜:ゴムゴムのみがいちばんにてるのかな〜?」

「たぶんね〜」

「それじゃあのこったこの2人は〜?」

まだ指していなかった戦士らしき女性とボスらしき男性を青髪の少女が指さす。

「このカブトをかぶった人はね〜、このアクのぐんだんのボスなの〜!そしてこっちの女の人はアクのぐんだんとたたかうせんしソラなの〜!」

「へ〜、ソラってかっこいいね!」

「でしょ〜?!まわりはアクのぐんだんが好きな人が多かったからちよつときみしかつたのだ〜」

「ボスはやりをつかっていたたかうの〜?」

「そうだよ〜!それにかがくしやでもあるからいろんなヘイキを作つてソラをたおして、せかいせいふくをたくらんでるの〜」

「へ〜、どっちもすごいなあ」

「そしてね〜!アクのぐんだん全員が身につけてるものにもかけがついてるの〜!」

「え〜!?!まだあるの〜!」

「まずはマント!これはタテになるほどかたいのにヒラヒラしててふしぎなマントなの〜!」

「どうやって作ったんだろう?ふしぎだな〜」

「次にね〜、クツ!ロケットみたいになっててね〜、空を自由にとびまわるの〜!」

「足くびがつかれそうだな〜」

「さいごはね〜身につけてるものじゃないんだけど、じゅうの玉もはねかえすがんじょうなはだだよ〜」

「はだなの?!?!すごいっよいね〜」

和気藹々と話していく少女達、本来ならば男の子向けの戦隊物だが女の子が見ても楽しいと思える、多数意見に当て嵌まる思想だろうか

少数意見に当て嵌まる思想だろうが、誰しも正義と正義がぶつかり合う姿には心躍るであろう。

「どうやってソラがかつんだらう？よんでもいい？」

「もちろん！」

こうして青髪の少女は一人で本を持ちなおし読み始めた、時には笑い、時には驚き、時には悲しみ、表情をコロコロと変化させながら読み進めていく。

その姿をニツコリと笑いながら隣で静かに見守っているうーちゃん、その姿はどことなく嬉しそうだ。

ふと、一区切りついた様で青髪の少女はつい先ほどまで読んでいたページにしおりを挟んでから本を閉じ、隣に座るうーちゃんに体ごと顔を向け話しかける。

「すつごくおもしろいね！いまだいいっしようまでよんだけどすごいたのしかったよ！」

「それはよかったね、気にいってくれてありがとう！」

「そうれでね！もう一つ本があつたでしょ？どんなはなしなの？」

「うそつきのーらんどはね、ノーランドって言うぼうけんかのはなしでね、おうごんきようがあつた、って言うてくろうして王さまといっしょに行つたけど無くって、ノーランドがかいていしずんだつてウソついたからころされたはなしだよ！」

「すごいはなしだね！そのはなしってほんとうにあつたはなしなのか？」

「たぶんほんとうなんじゃない？大人の人たちがほんとうのはなしだつて言つてたからね」

「そーなんだ、かいていしずんでたらおよげないからとりにつけないなあ」

「わたしもおよぐのはにがてだからね」

「そうなんだ？！だけどうーちゃんはれんしゆうすればおよげるとおもうからがんばれ！」

「そうだよ！わたしはアクマのみ食べてないからおよげるの！」

「そのいきだよ〜!」

「わたしがおよげるようになったら〜、りかちゃんのことたすけられるんだね〜!」

「そうなたらたすかるよ〜、ありがとう〜! えつと、こんなときは〜、たしか〜、こ〜ゆ〜んだっけ、こころの友よ〜!」

「ふふっ! どこかの少年みたいだね〜」

「えへへ〜」

青髪の少女もといりかちゃんと呼ばれた少女はうーちゃんを励まし、勇気づけ、笑い合う。

おや? この様子を一部始終扉の隙間から覗き見ていた者達が居るようだ、そつちも見てみよう。

「はあああああ…天使だ、天使にしか見えない、そして可愛い、確かに海の戦士ソラは名作だな、ああ、ココロ表情変えて、可愛すぎるわ、ウリエル様もシリカ様も天界から降りてこられましたか? もうそれ程可愛い、天使すぎる、そう思うだろう? お前も」

普通に悶えていた、だが危ない雰囲気では無いようだ。

そして細マツチヨ系の男はゴリゴリに体格の良い男に問いかける。

「そうで〜(わすなく、邪魔してならぬと止めて下さらなければ我輩はそのまま入っていたであろう、感謝するでござす」

「良いって事よ、それよりもそろそろ就寝時間なのだがどうすれば良いと思う?」

「区切りの良さげな所をなんとか探り、伝えるしか無かろう」

「そうだよな、それしか無いよな…」

悶えてるだけかと思えば就寝時間を伝えあぐねてもいた。

すると覗いている二人の男達の後ろを通り過ぎようとしたが立ち止まり話しかけようとするこれまたスタイルの良い男がいた。

「ん、お前らこんな所で何してるんだ? もうそろそろ就寝時間だろ?」  
「あ、ちようど良かった、実はこの和氣藹々の中どうやって伝えようかと悩んでいました」

「ん? そんな事で戸惑ってたのか? 普通に入って伝えれば良いだろ、そしたらシリカ様達も納得して素直に明日に回すぞ」

「そうでごわすか、よし！我輩が言ってくるでごわす」

「良いのか?!」

「うむ」

「なら頼むぞ」

「はやくしろよー、明日も仕事だからなー」

そう体格の良い男は言い、言われ、そして扉を開け伝えに行き少女達に近づいていく。

「シリカ様、ウリエル様、お楽しみのところ申し訳ありませんが、そろそろ寝る時間ですよ」

「もうそんなじかんだったの〜?」

少女達はびっくりした顔をし、りかちゃんが聞き返す。

「そうですよシリカ様、さあ片付けてベットに参りましょう」

「そっかー、それじゃああしたまたはなそ〜よ〜、うーちゃん!」

少し少女達は残念そうだがすぐに切り替え片付け始める。

「そうだね〜、おやすみ〜!」

「おやすみ〜」

「おやすみなさいませ」

そうして交わされるおやすみの合図、その後少女達は夢の世界に飛び立ち、男達は仕事を終え少女達よりも遅く夢の世界に飛び込んだ。

## 第16話 振り返り

今日は日記を始めてから11カ月と29日目です！

日記を書いている本もあと2ページです！

全部で365ページで1年分って、もらったとき聞きました！

でも、あたらしい日記を買ってもらわないとつづきを書けません！

今日は5才のときからはじめて1年くらいたったので、この1年間の思い出を書いていきます！

まずはじめに、日記をはじめたことです！

日記をはじめたからずーっーっーとその日にあつたたのしいことや、いやだったことも見れます！

いやだったことはみたくないけど、大きくなって見たときに、笑えるくらいたのしい毎日がきつとまってるからです！

そうだ！いいこと思いついた！わたしに聞けばわかるよね！

また見ると思うからずーっーと先の、大きくなったわたしへ！

わたしは今、しあわせですか？

毎日がたのしいですか？

毎日がボーケンにあふれていますか？

世界中をトンでますか？

本を書いていますか？

世界中の本を読みましたか？

毎日だれと一緒にいますか？

タイガーさんに会えますか？

今どんなことしてますか？

今どのぐらい世界を知っていますか？

今わたしは妹か弟が欲しいです！

理由は、ウーちゃんはお姉ちゃん みたいだけど しんゆう

だから、お姉ちゃん じゃないから、本で読んだ たのし

そうな 下の世界のふつうを やってみたいから。

たとえば 一緒に木にのぼったり、カードゲーム したり、本を  
読んだり、話したり、一緒に 何かしたり、それで やっっちゃっ

て お父さんと お母さんに 一緒に おこられ たり、大きく な  
ったら 何に なり たいか 言い あったり したい から、  
だから。

妹か 弟は います か？

今、ちよつときみしいです、となりにウーちゃんはいるけど。

うーん、でもやっぱりちよつとはずかしいな。

でも聞かないとわからないからけしません！

次は、アクマの実を食べたことです！

あのね！金色とクロみたいな色のボールは思った形に自由に変わ  
ります！

さらに、自由に思ったとおりに動きます！

鳥の形にして一緒にトンでみたり、おもしろいです！

それで、自分でもトブレんしゅーのためにドールに向かって空から  
トビ込んでみます！

そーしてたらちゃんと思ったところに止まれるようになりました  
！

次は、ウーちゃんいや、ウリエルちゃんが来たことです！

ウーちゃんの背中についてる大きくて真っ白な羽根が大きく動く  
ようになりました！

あんまりはやく動かせないみただけど、いつのまにかうーちゃん  
も空をトべるようになってそうです！

そうだ、ウーちゃんが来てから本じゃわからない下のあそびをたく  
さん知れました！

ノーズブルーの事をたくさん知れました！

ウーちゃんはノーズブルーでウーちゃんのお父さんとウーちゃん  
のお母さんとみんな旅をしてたらしいです！

今はみんなバラバラになっちゃんたんだって、いつか会わせたい  
な。

ウーちゃんはたまにツバメやドールと動く紙を手にして話してま  
す。

でも昨日3人が話してる時は動く紙が上を向いてて、ウーちゃん

がすごい笑顔になったのでカイケツしたのかな？

聞いてみたいけどわたしに言えないような事だったから、わたしに話さなかったのかな？

だからウーちゃんがわたしに話すまで待ちます！

次は、タイガーさんに会ったことです！

タイガーさんは下のことをたっつっつっくさん教えてくれました！

本だとあまりよくわからなかったことや書いてなかったことを教えてくれました！

世界中のボーケンの話をしてくれました！

とつてもたのしそうだったからわたしもトビまわりたいて思いました！

タイガーさんはわたしに世界のはじっこを教えてくれて、それがとつてもたのしそうであこがれました！

だから、わたしがもつと世界のことを知りたいって思った話をしてくれた人だから、もう1回会えたらありがとう！って言いたいです！

もう1回会うときは大きくなって世界をトビ回っていると思うからわたしのボーケンの話でおどろかせたいです！

次は、お父さんとお母さんにおこられたことです。

なんでおこられたのかまだわかりません！

でも、とつてもこわかったです。

なんでわたしと話たがらないのかわかりません！

たまにわたしのことを見るとうらめしそうな、いやそうな顔をするのもわかりません！

でも1ヶ月ぐらい前にお父さんのお兄さんから聞きました。

お父さんには妹がいて、わたしはその妹にとっても似ていて性格までそっくりなんだって。

名前はシャツタカイト・フォルトゥーナ、って言います！

わたしと同じで名前にホウセキが入ってないのがフシギだったから覚えてました！

なんか、かっこいい名前だと思いました！

どんな意味なんだろう。

ってこの話は聞いた日にも書いてました。

でもやっぱり似てるけどなんでお父さんとお母さんはあんな顔するのかわかりません！

おばさんに会ってみれば何かわかるのかな？

まだおばさんとは会ったことありません！

次は、本ばかりの部屋に新しい本がいっぱい入ったことです！

本ばかりの部屋の本を5分の1ぐらい読みおわったくらいで入ってきました！

新しい本もおもしろそうなものばかりですつといたり、いっぱい借りてきてます！

海のせんしソラの新しい話や、イーストブルーことわざまとめや、ワノクニの昔話や、世界のマボロシの島まとめや、マボロシのお宝でんせつのまとめ、とかを昨日借りてきました！

ウーちゃんは月の本や、動物の本や、ミンクゾクの本や、レキシの本を読んでいます！

でも本を読むよりも絵を描いていることの方がたぶん多いかも。

次は、シャボンディ諸島に行つてウーちゃんと遊んだことです！

シャボンディ諸島の遊園地のところに、ウーちゃんとタツツとドールとツバメと一緒に行って、思いっきり遊びました！

コーヒーカップでグルグルフラフラになるまで回つたり、メリーゴランドでどーぶつさんにのつたり、ゴンドラにもものつていきおいをたのしみました！

あとはお化けやしきにも行ってみたけどやっぱりこわかったです。クマのふーせんをもらつたり、ウーちゃんとアイスをたのしみました！

またみんなと一緒に行けたらいいな！

何回書いてもたのしいです！

ウーちゃんは初めてだったからずーっとたのしそうでした！

お父さんとお母さんはヒューマンシヨップ？に行つてわたし達とはなれました。

とつてもたのしくてまた行きたいけど、あの服を着るから目立っていないやでした、どうしてもあれ着なきゃいけないのかな？

あの服着たくないのに、動きづらいしみんなわたし達をさけて、さらに頭もさげるから乗りものに乗ってる時だけその反応がありませんでした。

みんなうたれるのがこわいから？

わたしはジユウもケンももってないし、きずつける理由もきもちもないのに、やっぱりみんながやってるからわたしもやるって見られるのかな？

わたし達から変えないとみんなこわくて、どっちもすごづらいかな？

うーん、わからない、でもまだかえられないのはわかる。

変え方がわからない、力がない、力だけもだめ。

むずかしい、でもなぞときみたいでたのしい、こたえはないけど。

あれ？

いつの間にか次のページにまで書いてる、フシギです！

そうなるよ、あと1ページしかないから、明日の分しかありません！

でもそれだけ思い出がいっぱいあります！

とにかく、この1年はいろんなことがあつてたのしかかったです！

来年はもつとたのしい1年になるといいな！

ウーちゃんもそろそろ本を閉じるから、わたしも今日の日記をおわって寝ます！

おやすみ！

## 第17話 奴隷解放

今日は日記を始めて12カ月と1日目です！

今日の文を書いたら新しい日記本に書きます！

実はね、2日前にとつても大変なことがおきたの！

2日前に日記を書きおわったあと寝ようとしたら外がうるさくて、そして少しあつかったの、おかしいって思ってたらタツツーが外を見てくれたの、そしたらね、火がぼーぼーもえてたからいそいでウーちゃんもつれてみんなで安全なところまで走ってにげました！

1日空いちやつたのは書く時間が無かったからです。

それでね、にげてる間に色んな人を見ました！

ドレーだった人がたくさんにげてました、お母さんやお父さんやしんせきの人や近所の人がみんなくやしそうな顔をしてたけど、わたしはわたしたち天竜人に、もうひどいことされないからよかったと思います！

いたそうな顔をしてるのを見るのはやっぱりいやだからです！

タイガーさんみたいな魚人ゾクはなにもしてないのにドレーにされたりするからよくわかりません！

ふつーのなんのシュゾクでもない人は海ゾクとかのワルいことをした人だから、ワルいことをしなかつたらいいからです！

でもワルいことしてないようなわたしと同じような子どもは何でいるんだろう？

親がワルいことをした海ゾクとかなのかな？

でも自分は何もしてないのに親の力？エイキョー？やったことを自分にもかぶせられるのはおかしいと思います！

わたしは下に住んでいる人たちみたいに、ウーちゃんが教えてくれた下の遊びや、からだを動かす遊びをやりたいです！

へんな目で見られたくない、同じ遊びでみんなと遊んでみたい、ドレーとして来た同じくらいの子たちはウーちゃんみたいに遊んで、少しわたしのことを怖がって見えます。

だから、わたしはウーちゃん以外にも怖がらずに遊んでくれて、一

緒に笑い合える友だちがほしいです！

今日ほのうからウーちゃんと一緒ににげたあと2人だけでいる時間がありました。

そのときにウーちゃんがウーちゃんの親が地上で見つからなかったけど、ビブルカードはちゃんと生きてるってわかって不安だったけど安心したことを教えてくれました。

教えてくれたあとウーちゃんからわたしたちはもうしんゆうだって言われました、どんな意味なのか聞いてみたらここからずっと一緒に居たい人のことみたいです！

なんか、うまくいえないけどすごくうれしかったです!!!!

ウーちゃんと初めて会ったときにはわからなかったと思います！

なんか、こう、スツキリしたような、ハツキリしたような、何かが取れたような、顔をしてました、たぶんわたしもしてたのかな？

あれ？なんの話をしてたんだっけ？

あつ、ほのうについての話だった。

そういえば、走っている間にね、タイガーさんを見かけました！

みんなをにがしてたのかな？

タイガーさんはたくさんキズがついてたけどすこし泣きながら笑ってました、なにを思ってたんだろう？

でも、わたしはなんとなくまた会えると思つて話しかけませんでした。

だけど、しあわせになつてほしいからこそそり金色のしあわせの方の玉をタイガーさんにとばしました！

そしたら、タイガーさんはわたしに何かを言つてるような気がなんとなくありました、わたしに気づいたのかはわからないです。

そうだ！

わたしがアクマの実の力で出す物の玉みたいに丸い形の奴はこーうん玉とふこー玉つて名前にしよつと！

今まで名前はつけなかったけど、名前を言いながらならなんとなく出しやすい気がするからです！

鳥の形や動物の形にしてみたら面白そう！

でも、今日はもう眠いから明日やってみます！

でも、まだまだ書きたいことはあります！

わたしはタイガーさんに少し大きめの玉をあげたけど、実は他のに  
げてるドレーだった人に何人もあげました！

一つ一つはどうしても小さい玉になっちゃったけど、いたかった分  
だけ少しでもこーうんになってほしいからいっぱいおぼしました！

走りながらやったからけっこうつかれたけど寝ればつかれは無く  
なるから気にしません！

そして、色んなところにとびちる金色の玉は花火や雪や桜の花びら  
みたいでとってもキレイでほのうとかさなると赤色と金色がまぎっ  
て、赤色がオレンジ色みたいに光ってとってもキレイでした！

わたしはこのアクマの実を食べてよかったと思いました！  
だってこのアクマの実じゃないとできないことだと思ったからで  
す！

ほかのアクマの実はどれもこの力に似てませんでした！

でも、ラキラキの実、って言うアクマの実ほかの人のうんをとつ  
たりあげたりできるらしいです！

自分で作れないからラキラキの実わたしはそんなに好きになれ  
ないです。

ほかの人や自分をこーうんにしようとしたらだれかはふこーに  
なっちゃうからです！

だれかがふこーになるなら自分がつかれる方がいいです！

それに鳥になって空を自由にトべるのはたのしくて、おもしろく  
て、やりたいことをやれる気がするから大好きです！

そういえば今いる場所を書いてませんでした、今いるのはいつもは  
行かない秋のきせつのところにある家です！

この家はシャボンディ諸島に行くよりも行かない家です！  
冬のきせつのところを通るときは少しきむかったです！

でもとっても早く走れる動物がひっぱる部屋？に乗ったから早く  
着きました！

あったかい毛布とコートをきて、のんでるあったかい牛乳がとつて

もおいしかったです！

すごい遠かったけど通ってる間は外がどんどん動いてたのしかったです！

海はほのうの光で明るくなってて、お昼に見るよりも違ってなんかキレーでした！

それに、雪もふつててすごかったです！

もう書くスペースがなくなってきたので今日はもう日記をおわります！

明日は新しい日記に書き始めます！

1つ目はおわったので二つ目です！

おやすみ!!

## 第18話

### 新たな日記帳

今日は日記を始めてから12月2日目です！

あたらしいにつきー！

新しくなったらまたかけるからうれしいです！

新しい日記も365日分あります！

それに、行の数がふえてて前よりもたくさんかけます！

たくさんかけてもあまったら絵でもかいてみようかな。

今日は外でウーちゃんと雪で遊びました！

冬はさむいけど雪があつてたのしいです！

もこもこの服をきてたけど、鳥になつてもあまりさむくなかつたです！

鳥の時ウーちゃんとかつついてみたけど、わたしももこもこだからよくわからなくなりました。

でもあつたかかつたです！

雪の上でももこもこならあつたかい。

くつついてる時ウーちゃんもあつたかかつたみたいですよ！

鳥になつたらあつたかいし空もトべるからいいことばかりでたのしいですよ！

それで、雪を丸めてなげあう雪がつせんで遊びました！

冷たかつたけどとつてもたのしかつたですよ！

大きく丸めると投げにくくて、小さく丸めると当たりにくかつたですよ！

大ききつてむずかしい。

みんなで投げ合うために、ウーちゃんとタツツがチームになってわたしとドールがチームになって、ツバメに見てもらつてたたかいました！

投げ合う前に線を引いてそれぞれ雪でかべを作つてやりました！

1回目はわたしたちがかつたけど2回目はウーちゃん達がかちました。

ドールがものすごく大きく丸めて投げて雪のかべをこわしたのが

すごかったです！

わたしも鳥になってよけたけど鳥の時は投げるのも雪をつかむのもできないことに気づきました。

ウーちゃんは空をトンでよけながら雪を投げたからすごいです！  
タツツーもどんだん雪を丸めてどんだんウーちゃんにわたしてました、空から雪がトンでくるとさけられなかったです。

ほかの雪遊びも遊びました！

ウーちゃんが雪遊びをたくさん知ってました！

雪を丸めてころがして大きくして、また雪を丸めてころがしてききよりも小さいけど大きくして、のせて雪だるまを作りました！

でも、まんまるにならなくてバームクーヘンみたいな形になっちゃいました。

だから、上にのせる雪は前にもよこにもななめにもころがしてみましたが、そしたらまんまるになりました！

まんまるになったから、ドールにバームクーヘンみたいになっちゃった雪にのせてもらいました！

下になった雪のよこがへこんでたから雪をつめて丸く見えるように頑張りました！

そしたら、顔を作りました！

石で目を作って、太めの枝ではなと口を作って、細めの枝でまゆげを作りました！

そして枝で腕を作りました！

わたしの二倍ぐらい大きかったからたいへんでした！

明日ものこってたらいいな、がんばってみんなで作ったからです！  
次は、かまくらを作りました！

たつくさんの雪をみんなであつめて、つみあげて、たたいて固めて、ととのえて、とつても大きくつみあげました！

お家よりはとつても小さいけど、わたしよりはとつても大きくて何十倍もあります！

そして、こわれないようにみんなで中の雪をほりだして中に入れるようにしました！

中は風が当たらなくてあったかくて暗かったです。

だから、金色に光るコーウンの玉を手のひらの大きさ位出して、てっぺんに浮かせてみました、すると明るくなって、すっごくとてもかなりキレイでした！

雪がキラキラしてて、さらにキラキラになって、ほんとうにキレイでした！

3日前に見たのには負けるけどキレイでした。

でも、コーウンを出すとやっぱり少しつかれる。

ウーちゃんもタツツもドールもツバメもみんなが入ってもまだまだ広がったです！

みんなキレイって言うってうれしかったです！

そして、中で何か食べたくなって、ウーちゃんがかまくらといえはおモチって言ったから、おモチを中でやいて食べました。

タツツがモチと火バチを持って来てやいてくれました！

中で何かもやしてもかまくらってこわれなかったです。

出入り口を少し大きめに作ったからけむりがこもらなかったみたいです！

いつもおモチ食べるよりかまくらの中で食べる方が美味しかったです。

まんまるのひらべったいおモチをやいたらぷくぷくってふくらんでまんまるに膨らんで、あつあつでおいしかったです！

小さいクツキーみたいな大きさのおモチでした！

のりでまいてしようゆをつけて食べたり、あんこやきな粉をつけて食べました！

おモチおいしい。

外が暗くなってきたらかまくらから出ました。

少しお腹いっぱいになってたけどご飯の時になったらお腹が空いてました。

大きいエビのロブスターもおいしくて好きだけど、エレファントマグロって言うフシギな形の魚のはなみたいなおもしろくて好きです！

でも、水水肉とフルーツケーキの方が好きです！

ウーちゃんは海王類のハムや生ハムメロンが好きみたいです！

だけど最近フルーツタルトも好きになってる？

水水肉は焼いてもおいしいし、ローストして水水アメとフルーツを  
まぜてソースにかけてかけたのもおいしいです！

甘くておいしい色んなしゅるいのフルーツ、と甘くてとつてもおい  
しいケーキがものすごくおいしいから好きです！

いくらでも食べたいです！

でも、さいきは生の魚もおいしいから食べてます！

フルーツやケーキとはちがった甘さで、甘い魚がいっぱいあってお  
いしいです！

カイやカニも甘くておいしいから生の魚と食べたりしてます！

寝るまえにおいしいものを考えてたら、ねむいのに少し食べた  
なっちゃいました、でもガマンして寝ます！

だって、むし歯になりたくないからです！

だから、もう寝ます！

おやすみ！

## 第19話 その後

### 第19話 その後

今日は日記を始めてから12月3日目です！日記を書き始めたときにはこんなにつづくなんてわからなかったです！

まだまだ書きます！

あたらしい日記はまっしろで、最初の日記は少しきたなくなっちやつてます。

そんなことよりも大変なことがありました！

今日はさんぽしようとして、中庭じゃなくて外に出ようとしたらたくさんの人がいて、たくさんいろんなことを言われました。

たとえば、となりに住んでる人にこう言われました。

「わちしのドレーコレクションをかえすえ！あれだけの船長をあつめるのにわちしがどれだけ金をつぎこんだかわかっているのかえ?!」

他にも正面に住んでる人にこう言われました。

「そうあます！わちきの魚人ドレーのコレクションもあます！かえしなさい、このかわりものものこむすめ！」

他にもこんな言葉がありました。

「そうだ！そうだ！わちしの人間の子どもドレーたちとアクマの実をかえすんだえ！泣かさずにそうじするこすがたがわらえたのにだえ?!めろめろの実で物がかたまるのが面白かったのに、おばえのせいでもう遊べなくなつたえ！」

「シリカ!!おばえのせいでハンニンの魚人をにがしたからこうなつたのはわかつているんだえ！セキニンとるえ！」

「シリカ!!おばえのせいだえー!!」

こわくて、いそいそお部屋にもどりました。

たくさん大きな声を出している人がいて、みんなわたしにおこつて、こわかったです!!

こわい、こわくていやでした。

なんでみんなおこつてるの？

今日はこわくてお外に出たくないです。

お父さんとお母さんもこわくてお部屋の外にも出たくないです。

お部屋の中からお外をこっそりみたらたくさんの人が下にいて何か言っていました。

よくみてみるとこつちに何かを向けている人がいて、分からなくて考えていたらいつのまにか、かみの毛がちぎれていました。

とつてもびつくりしました！なんでちぎれたのかわからなくて後ろを向いたらうさぎの人形にとんがって丸い小さな玉がささってました。

こわいからみるのをやめました。

ウーちゃんのハネがキレーでほんとうにお空からきたみたいで、なんか、あつたかかったです！

ぎゅー、つてできしめて、ハナれなくなかったです！

ウーちゃんが、わからない、すごいです！

ウーちゃんはだいすきだけど、こわいからもう下の人たちについて書きたくない

ご飯はタツツーたちが部屋まで持ってきてくれました！

ありがとうございます、でも、お父さんとお母さんのこわい声が聞こえてきました。

タツツーたちもわるいみたいなことと、もうあわせない？みたいなことが聞こえてきました。

泣きながら食べました、どんな味かわからなかったけど食べ終わってたあとのアメがおいしかったです！

ほんとうにタイガーさんはだいじょうぶなのかな？

ちゃんと魚人島に帰れたのかな？

生きてたらこんなにこわいこともこわくないと思います。

それと、にげたドレーの人たちもだいじょうぶなら。

あのととき、ものすごくねむくなつちやつたけど、小さいけどちゃんとみんなにコーウンをあげたから、だいじょうぶだと思います！

今日のことはこわい、わすれたい、あしたになればこわくなくなるのかな？

だから、もう今日は寝ます、おやすみ！

~~~~side三人称~~~~

「奴隷を返すえ!!!」

と1人の天竜人が叫びながら銃を青い髪の少女に向けて構える。

そして、周り天竜人が放つ暴言と同じ様に軽々と引き金を引き鉛玉を放つ。

放たれた鉛玉は空へと突き進み、遂には青い髪を掠り兎型のぬいぐるみに吸い込まれていった。

振り返りそれを見た少女は怖気付き、顔を青くしながら慌てて窓から扉にぶつかる程飛び退きそのまま座り込む。

少女は己の髪のように青くなった唇をただばくばくと動かし、言葉にならない声を発するのみ。

周りにいるスーツ男どもは窓を少し見遣りながらも、白い髪の少女と共に顔を強張らせている。

そして白い髪の少女が少女シリカに近づいてゆくのをスーツの男どもは見届ける。

白い髪の少女ウリエルは呼吸を整え、表情も和らげ、できるだけ不安にさせぬため優しくシリカに語りかけていた。

「だいじょうぶ、大丈夫だよりかちゃん。まだ生きてる、ちゃんとツ：生きてるから、りかちゃんは何も：ツわるくないから：！」

そう話しながらゆっくりとシリカを抱きしめ背中をさすっている。それに応えるかのようにシリカはウリエルを抱きしめ返していく。

刹那 その姿はまるで天から舞い降りた天使と地表を飛び回る青き鳥が、お互いに幸せを与え合っているように、そう垣間見えた気がした。

少女達はお互いの涙を隠し、不安を慰め合うかのようにぎゅっと力強く、そして壊さぬ様にそっと、気の向くまま抱きしめ合う、その様

子を見たならば、そこには2人だけの世界が広がっている様に思えるだろう。

それほどまでに他者を近寄らせぬ雰囲気があるにはできていた。

そんな少女達をスーツの男どもは誰一人としてその世界に立ち入ろうとはせずひっそりと動き出す、1人は窓とカーテンを閉めに、1人はお昼が近い事もあつてか皆のご飯を取りに、1人は銃弾の後片付けに。

言葉を交わさずとも自然と皆バラバラに行動できる程にスーツの男どもの絆は少女達によつてか、いつしか深まっていた。

だが、スーツの三人衆は少女達をよく知っており仲も良いはずなのに、何故か誰一人としてその世界へ立ち入ろうとはしなかった。

もしや、触れ方を分かっている者は誰一人として居なかったのだろうか、ただそれだけであつた。

その後、昼食を取りに行っていた者が無事生還する頃になれども、少女達の啜り泣く声ばかりが響いているだけでウリエルの発言以降、誰一人として言葉を発する事は無かつた。

気が紛れたのかはからずか2人だけの世界をそうぞうするのを辞め、席に着き皆で食べ始めるが恒例のいただきますはなく、初めてであろうスーツの三人衆とともに食べる食卓も食器の音がただ、カンカンと淋しそうに鳴り響くだけである。

全員が食べ終え、食器を片付けて戻つてもなお沈黙が流れるだけであつた、普段から陽気な者も、筋肉馬鹿な者も、冷静かつ的確な言動の者も、全員黙り込むだけである。

流石に耐えきれなかつたのだろう、スーツの三人衆の1人がポケットを弄り引つ張り出した飴玉を2人の少女にそれぞれ与える。

2人の少女はそれを受け取るとゆっくり口の中に入れコロコロと転がしている、少しばかり表情が和らいだ様に見える。

それを見届けた三人衆は1人を部屋に残し、2人は事態を収めるべく駆け出した。

して、部屋の外ではハウセキ家 分家当主であるハウセキ・ダイヤ様とその御婦人であるハウセキ・ルビー様、御二方に怒鳴られ、暴言

の嵐を浴びながらも、豪華な大理石に赤カーペットを敷いている床に頭を減り込ませる勢いで土下座をして居る三人の使用人に、加わるように更に2人の使用人が勢いよく飛び込み着地と同時に土下座をした。

「この度はホウセキシリカ様を唆し、ホウセキダイヤ様、ホウセキルビー様、並びに多数の世界貴族様の奴隷を逃してしまった事を心より深く、深くお詫び申し上げます!! 私どもにも出来ることならば：否、どんな処罰にも全力でお応えします! どうぞ、何なりとお申し付けくださいませ!!」

5人のうちの誰が言ったであろうか、そんな事などどうでもよかった、ただひたすらに世界貴族の怒りを、我が子であるはずのシリカに向けられる憎悪を、少しでも鎮めたい思いを胸に一致団結していた。

たとえどんな天竜人<sup>ゴミグズ</sup>だろうと全てに肯定し付き従う使用人であるが、流石に同じ世界貴族であり天才的で愛らしい幼女が恐怖に怯える姿は見るに堪え難かったらしい、少しばかり良心の芽が真っ直ぐに持ち直しているようであった。

だがそんな思いもたった一言により砕け散る事になってしまった。

「これは大罪あます、奴隷を逃した罪がお前達で足りるはずないあます、そうでしょうあなた」

「あたりまえだえ、おばえ達を奴隷にしてもおばえ達は乗り心地最悪だえ! なんの特技もないから戦わせて遊ぶことさえもできないえ! そんな珍しくもない人間が、元はただの下々民だったおばえ達が、何故奴隷を逃すように唆したんだえ?! シリカの変な考え方が元だろうえ!」

「ですが、いつ喋って良いと言ったえ?!」申し訳ありません」

「シリカは生まれた時から変だったあます、何故わちしらは金色の髪なのにシリカは青色なのがおかしいあます」

「ん? ちょっと待つえルビー、わちしのお母様が青色だえ、わちしの妹も青色だえ、忘れてたのかえ?」

「あら、そうであますね、あまりにも青色が憎くて忘れていたあます」  
「ならしやうがないえ、それはともかくおばえ達は世話係を辞めろえ、

辞めた後でもシリカには近づけさせないえ、それと選ぶえ、一週間飯抜きのガリガリ奴隷か、生きたまま解剖か、悪魔のみを食べて海水漬けになったり戦うか、サメのいる水槽で泳ぐか、好きなものを選ばせてやるえ、感謝するえ、わちしは優しいだろうえ？」

「はい、私ども下々民に選ばせていただけなんて光栄ですが、好きに決めてもらっても構いません」

そう宣言したスーツの五人衆は皆お互いに一瞬目配りをしていたが二人の天竜人は気がつかなかったようだ。

「あと、忘れてたがここに居ないもう一匹の世話係も同じだえ、伝えろえ」

それを言ったら用は済んだかのか、はたまた叱る為なのかシリカの部屋へ歩いて向かっていった。

その後二人の親の一人娘をきつく叱る声が、窓から覗いてた黒い鳥も驚いて飛び立つ程、城に響き渡った。

その夜皆が寝静まった頃、シリカの世話係をしていた者達は皆こっそりと身支度をし、監視に怪しまれぬようひっそりと城を出て冬気候の中森へ逃げ自然に紛れたそうなの。

カーカーと全てをひっそりと窓から見ているものが鳴いた。だが一人残るものがいた、その名もドールというものである。

皆で逃げ出すより一人は残ったほうが良いと判断したのでろう、曰くシリカ様はどうなるか、皆で逃げ出したらシリカ様に全て向けられるのではないか、搜索や関係のなかった名も碌に知らない同僚に危害が及ぶのではないか、などと不安は尽きなかったからである。

それにドールは立候補したようだ、その時こう言つて他五名を納得させた。

「我輩は体力だけが自慢でござす、あまり賢くない我輩よりも頼りになれる皆が逃げて欲しいゆえ、我輩は此処に残るでござす。我輩も姫君に恩はある、それに一度始めたのなら最後まで貫き通す、それが我輩の信念でござす」

その発言時にも皆涙し、逃げ出した今も改めて涙を流したそうなの。

## 閑話休題

少し時は遡り夕食後眠りに着く前に、それは使用人の手によりシリカの父の元に届いた。

「ほう、聖地マリージョア襲撃事件の主犯であるフィツシャータイガーを逃したシリカをパンゲア城に連れて来いと、この手紙本当かえ？」

「はい、間違いありません、ほら手紙の下の方に印があります」

「何故こんな事を言うのがわからんが、こんな不出来な娘でよければいくらでもくれてやろうえ、すぐにでも向かわせろえ」

「勿論です、ですが明日の朝連れて来るよう書かれていますので、明日までに準備致しましょう」

「本当だえ、まあ良いえシリカが居なくなるのなら」

そうして興味を失った紙ははらりと床に舞い落ちてゆく。

もしほんの少しでも良心を持ち合わせていたのならば机に置いていたであろう。

## 第20話 パンゲア城

今日は日記を始めてから12月と4日目です！

まだ、昨日のことがこわいです、こわかった。

やっぱり、なんでわたしはうたれたのかわかりません。

そんなことよりも、今日はいろんなことが起こりました！

まずは、朝起きたらお部屋のものがみんな何個かのハコに入っていました。

わたしはなにもしてないのにフシギでした！

わたしの大好きな本もみんな入っていました。

それから、たくさんの知らない人が来てハコをみんな持って行っちゃいました！

お部屋が四角くて広くなりました。

フシギに思ってたけど、朝ごはんが来たのでウーちゃんと一緒に食べました。

食べ始めるときにタツツー達が居なくて、ドールだけいることに気づきました。

なんで？ってわたしが聞いたらドールはこう言いました

「タツツーどの達はみんな遠くに旅行に行っていて、ワガハイはるすばんしてるからでござわっ…からです」

なんかへんなドールでした。

でも、なんでドールだけのこしてみんなでどっか行っちゃったんだろう？

それに、こわくてすこし泣きそう？でドレーの人たちがする顔？でふくぎつな顔をしました。

すつごくフシギです！

それで、ご飯を食べおわつたら急にお外に知らないスーツの人に連れられて馬車？って言う4日前に乗った部屋に入りました。

ウーちゃんも一緒に連れられて行きました！

また冬のきせつのところを通ってほのうがあつたところにつきました、あつちこつちが黒くて見たことない人がたつくさん居ました！

知らないスーツの人にたつくさんいる人の話を聞きました！

あの人たちはウオーターセブン？ってところと、ハンドアイランド？ってところと、セントポプラ？ってところと、サンファルド？ってところや、他にも色んな国の人たちがたつくさん来てどんどん黒くなったりこわれたものを片付けていました！

海兵さんとスーツの人達もたつくさん来ていました！

気になったので少し上をうでだけ羽根にしてトンで見てもわるごとにししました！

空をトンで見えていたら、たつくさんの人の中に魚人の人もいました、黄色の人でした、色んな色の人があるって本当だったんだ！

魚人の人の周りを走ってる青いカミのパンツとティーシャツの人はその魚人の人と友達なのかな？

でもなんであんなかつこうしてるんだろう？

他の人達からフシギな目でその人達を見てるような気がしました。

少し気になったけど近くに行つて話しかけるのはやめました。

空をトンで見てたら色んな人がいておもしろかったです！

海兵さんの一人が赤くてあついものをまいて黒くなった色んなものをけして？ました。

その赤い海兵さんに、他の海兵さんが黒くなったものをなげました、でもなげてたのはその海兵さんだけで他の海兵さんは近くにおいてました！

とっても重そうなのにごい力のある海兵さんですごいと思いましたが！

なんとなく黒いものをなげてる海兵さんの近くにおりて色々聞いてみました！

そしたらエイユーのガープさんでした！

名前を聞いたあと、なにものか聞かれたから元に戻つてから名前を言いました、そしたら少しおどろいてたけどわらつてました！

周りにいた海兵さん達はびっくりしたままでした、赤い人びっくりしたままでした。

ガープさんにアクマの実を食べたのか聞いたら食べてないって

いってました！

食べてないのにエイユーになるってすごいとおもいます！

力があつて海に入ってもヘーキってすごいです！

なにをやってるのか聞いたら、ほのうでもえたものを、さらにもやして消してるって言ってました！

あの赤い人はだれなのか聞いたら、サカズキって名前の人みたいですよ、マグマグのアクマの実を食べたマグマ人間だって言ってました！  
マグマのアクマの実ってどんなのか気になったから、ガープさんからサカズキさんの近くに行つて聞いてみました！

近くにいったらまいてた赤いものをぜんぶ消してました！

ほんとうに色んなものが消えててびっくりしました！

マグマはすぐくアツいどろどろの石？って言ってました！

マグマとほのうどつちがアツいんだろう？

聞いてみてもほのうはいくらでもアツくなれてマグマはいつも同じアツさだつて言いました。

でもその後には基本はマグマの方がアツくてたまにはほのうの方がアツくなるって言いました！

他にも聞きたかったことはあつたけど、知らないスーツの人がこっちに来て馬車に連れられて聞けませんでした。

なんかこわい顔をして走つてこっちに来てたのでこわかったです！

海兵さん達もびっくりしてました。

また馬車に乗つて大きい門まで行きました、シャボンディ諸島に行くときに通る大きい門を通ると、そのまま前にあるみんな通らないすつごく大きなお城の前にある大きい門を通りました。

そしたらすつごく大きなお城の前に黒いスーツをきた人が4人で1人は白い服を着てて、それで、白いカミの人が2人で白いヒゲの人が3人で、カミがない人が2人で、いて黄色のカミの毛とヒゲの人が1人でした。

その5人の知らない人の前に知らないスーツの人に連れられました、そしたら知らないスーツの人が知らない5人に向かって何か話し

てました。

マリージョアしゅうげきジケン？や、トリトリの実ゲンジュウシユほうおう？とかが聞こえてきたけどなにを話してるのかわからなかったです！

よくわからないままウーちゃんと手をつないで立っていたら今度は5人の人にお城の中に連れられました。

お城の名前はパンゲア城で5人の人は五老星っていうみたいです！

それぞれの名前は教えてくれなかったです。

それで、お城の中もものすつごく大きくてびっくりしました、それにあっちこっちにわたしの何倍もある大きなゾウが何個もありました！さらに、大きなわもりました！

さらに、歩いて行ったらたつくさんの剣？がささってて、さらに、その上にぶき？が20個？ささってるまんやかにフシギな形をした大きなイス？がありました。

そのイスに、おうかん？をかぶって長い服を着たフシギな金色の目をしてる人がすわってました。

それで、急に五老星の人達がひざまづき？ました、顔を高いところにいるフシギな人に向けてました。

それで色んなことを言っていました、まとめるとこんなことを五老星達は言っていました。

「イムさま、この青いカミの方が、あのトリトリの実ゲンジュウシユほうおうを食べた、世界キゾク、クオンタム・クアトロ・シリカです、そしてそのとなりの白いカミの方が、あのごくひじっけんエンジェル、ぼだいウルフとともにだっそうした、ウリエルです」

よくわからない言葉ばかりでした、それで、あの高いところにいる人はイムさまって名前みたいです、そして、何を言ったのかわからないけど、五老星達はわかったみたいでなにかをカタツムリに向かって話した後、わたし達をパンゲア城での私達のお部屋に連れられました。

イムさまがどんな人なのか歩きながら聞きました、そしたらこう

言っていました。

「この世でもっとしたが大うべき、しんの王であり、もつともとうときカミである」

よくわからないです！

五老星達はどんな人たちになるのかわからないからです！

わからなくてかんがえてたら、こわい顔でこつちを見ながらこう言いました。

「いいかい、われらはイムさまにしたがい、さまごまなことをやり、イムさまの力に、支えになればよいだけ、そうすればおまえにもよいとばかりだ」

さらにわからなくなつて、フシギでいっぱいになつたけどこわかつたから、あたまをたてにふりました。

それで、ウーちゃんと手をはなして歩いていたらいつのまにかお部屋に着いていました。

お部屋の中には前の部屋にあつたわたしのものがほとんど同じかんじの場所にありました！

新しいパンゲア城でのお部屋があるから、これからここに住むのかな？

パンゲア城は初めてきたけど、トビまわりやすかつたから、楽しみです！

でもウーちゃんとはべつべつのお部屋になつちやいました。

なんでウーちゃんとべつの部屋なんだろう？

1人はさみしいです！

ウーちゃんの背中の中羽根と尻尾もふもふであつたかいのに。

新しいお部屋について少ししたらお昼ご飯を1人で食べました。

いつのまにかウーちゃんと食べるようになってたから1人で食べたのは初めてです。

ウーちゃんが来る前は大きくて長いテーブルにお父さんとお母さんとはなれて食べてたとおもいます。

同じテーブルだけど前にはだれもいなくて、右にお父さんがいて左にお母さんがいたのかな。

そういえば、ウーちゃんと食べ始めてからご飯の時間が楽しくなりました！

やっぱりさみしいです！

お昼ご飯を食べた後ウーちゃんがどこにいるかさがすために鳥になつてからトンでパンゲア城の中をまわりました。

トンでたら急にだれかに足をつかまれました、びっくりして下を見たらあのイムさまって名前の人がわたしの足をつかんでました！

なんでつかんだのかわからないけど、こわいふいんきがしたので元にもどりました。

けっこう高いところをトンでたのにどうやってつかんだのかフシギです！

でもイムさまが地面についてなかったからトンなのかな？

いがいとかるかったです、そしていがいとわたしよりも高かったけど五老星達より低かったです。

それで、もどったあとトンでた方に進もうとしたらイムさまがものすごくこわい顔で止めてきました、なんでって聞いてもなにも言いませんでした。

だから、わたしからウーちゃんことウリエルをさがしてる、って言ったら何も言わずに手をつかんできて引つ張って連れられました。

なんでイムさまはしゃべりたがらないんだろう？フシギがふえましました！

そういえば暗くてよくわからなかったけど、まだトンでたときに遠くに赤くて大きな石みたいなのが見えました、もしかしてあの石に近づいちゃいけないのかな？

何か文字みたいなのがあるように見えました。

明日イムさまや五老星があそこになかったら近づいてみます！

それで、イムさまにそのままついて行ったら、ウーちゃんと会えました！

うーちゃんの部屋の前で止まってから手をはなしてどっかに行っちゃったから、ドアを開けたらウーちゃんがいきました！

ウーちゃんの部屋の中はわたしの部屋と近いけど、本棚の中の本は

ちがいました！

ウーちゃんとそのまま色んなことを話したり遊びました、2人だけで遊ぶのも初めてでした！

いつもはタツツー達と遊んでたからです。

タツツー達はこっちに来ないのかな？

お父さんとお母さんの居るお城の方に行くのかな、さみしいな。

夜ご飯が近づいてきたら五老星の1人のけん？を持ってる白い服の人が来て、わたしに1人で自分の部屋で食べる、って言われました。だからさみしかったけどウーちゃんとはなれました。

なんで1人なのか聞いたらこう言いました。

「そいつはドレーだろう、なぜ一緒に食いたがるんだ、それにこちらにとつてつごうがわるいからだ」

五老星の他のみんなは？って聞いたらこう言いました。

「わたしはおまえのかんしがかりに、えらばれたからだ、これからおまえの世話はわたしが引き受ける、が甘えるな」

かんしがかりって言葉がよくわからなかったけど、これからわたしの近くにて勉強を教えてくださいることはわかりました。

でも名前がわからないから刀の人って呼ぶことにしました！

でも五老星達とイムさまとは遊びづらいです。

それで、自分の部屋についたから夜ご飯を食べました。

刀の人は部屋のすみっこにすわってこっちをみていました、かんしがかりってもしかしてこういうこと？

夜ご飯を食べおわったからいろいろ刀の人に聞いてみました。

ここに来てからわからないことやフシギなことを聞いてみたけどハッキリ答えてくれなかったものが多かったです、答えてくれたのはこれだけでした。

なんでパンゲア城に住むことになったの？

「おまえがドレーを逃したフィツシャータイガーを逃したからだ」

そんなことでこんなことになるの？

わたしの思った通りにやっただけなのに。

五老星達は何をしているの？

「イムさまのもくてきどおりに世界をトウチしている」

イムさまのもくてきつてなんだろう？

1人の思ったことだけでトウチしてもいいと思えない。

イムさまはだれなのがやっぱりわからない

「したがえば世界中のものを思うがままに動かせられるわれらの王だ」

やっぱりわからないけどイムさまがあまりいい人じゃないことはわかった。

なんでイムさまがいたイスのまわりにブキ？がささつてたの？

「君たち世界キゾクのセンゾ20人が最初に立てたチカイである世界中の王をまとめる王は作らないという意味だ、その下にあるのは世界中の王達が立てた同じチカイのものだ」

じゃあイムさまはそれをやぶってるってこと？

どういうことなんだろう。

あのイスは何？

「からのぎよくぎだ」

イムさまはすわってるのに、からなの？

わたし達はこれからどうなるの？

「シリカは新しい名前とやくわりをあたえる、ウリエルはしかたないからその手助けだ」

よくわからないけど名前が変わるの？

どんな名前になるんだろう、なんかこわくていやだな。

やくわり？イムさまの力になれってこと？

よくわからない。

イムさまはイムさまって呼べばいいのはわかるけど五老星達はどう呼べばいいの？

「好きに呼べ、たとえばわたしなんかは刀を持っているからそれからとってみたりな」

だから刀の人って呼ぶことにしました、黄色いカミとヒゲの人は黄色い人で、カミがなくてヒゲが生える人はあぎの人で、白くて長いカミとヒゲの人は長い人で、ぼうしをかぶってる人はぼうしの人って

呼びます！

いろいろ聞きおわって日記を書こうとして本棚からとろうとしたら後ろからこんな言葉が聞こえました。

「おまえの力は使い方によっては国をほろぼすこともハンエイさせることもでき、さらには世界をトビまわることもちやすいだろう、これらはおまえを守るためだということをおまえにわすれるな」

よくわからないけど強くなれば、色んなことができるようになれば、イムさまからはなれて自由になっても平気なことなのかな？

でも外で自由にボーケンするには色んなことができて強くないとできないから、自由はイムさまと反対ってことなのかな。

フシギなことだらけだったけど今日は色んなことがあって眠くなっただので寝ます！

そういえば今日は何ページ書いてるんだらう？

書きたいことを書いていたらいっぱい書いてきました！

もう今日の日記はこれで終わります！

おやすみ！

## 第21話 探索

今日は日記を始めてから12月と5日目です！

いつもウーちゃんと寝てるから、1人で寝るのはさみしかったです！

ウーちゃんの羽根や尻尾はもふもふでさわりながら寝てたので少しさむかったです。

刀の人は朝起きたらいなかったです。

わたしはもう起こされなくても起きれます、スーツの人たちはすごいって言っていました！

そういえばなんで長かったつめが短くなってたんだろう？

爪を切ったのは14日前なのに、フシギです！

それで、今日は朝ごはんを食べおわっても刀の人は来なかったから、パンゲア城をトンで回ることになりました！

鳥になっていろんなところをトンでみました！

ウーちゃんとトビたかったけど、ウーちゃんのところにもウーちゃんはいなかったから1人でトビました。

そしたらカイダンがあつて下へトンで見るとすごく大きくて冷たいドアがありました、よくわからなかったけどなんとなく回してみたら開けられたから通れました！

通ってみたら少しさむかったです。

でも鳥になってトンでたらたくさんのかかれ道があつてすごく広がったから、とりあえずはじつこまでトンでトビながら分かれ道の先を見えました！

でも暗くてよくわからないところばかりでした、でも一個だけ見えたものがありました！

トンでたら何か見えたから見えたところのかかれ道に入ってみてみました、そしたらおつきなむぎわらぼうしが置いてありました！

少しだけ明るかったから見えたのかな？

大きいけど巨人ゾクでも少し小さそう？な大きさでした！

少しみてたけどあきたから他の分かれ道も見てみたけどやっぱり

よくわからなかったです。

何もなくてさむかったからそこから出て、ちゃんとドアも閉めてカイダンを上がってろうかに出ました。

次は、どこまで高いのかトンでみました！

お家の屋根より低かったです。

でも、上に行ける階段があったから行ってみました！

でもまだまだ上に行けそうでした、高くてよくわからなかったです！

だからやめました、それに昨日フシギだった大きくて赤いものところが気になってたから行ってみました！

昨日トンだところを今日もトンんでみたらありました！

大きくて赤い物は石？みたいなものです！

そしてフシギな形がへこんでるところがたつくさんありました！

見たことない形です、暗くてよくわからないから図形だと思っただトンでから見たら線だったから文字なのかな。

そういえば、レキシの本であれみたいな形を見た気がします！

でも同じ形はないと思います！

フシギだから見ていたら、なんとなくだれかが来そうだったからトンで石の上に乗ってかくれました！

そしたら足音が聞こえてきました、だから見つからないようにはじっこにいつて寝っ転がりました。

かくれんぼのときに見つかりづらくなるからです！

なんでかくれたのかわからないけど、かくれないといけない気がします！

そしたら、足音が石の前で止まりました、だれの声かわからないけどなにか話してました。

でも足音の一つだったから1人なのに、だれとしゃべってたのかフシギです！

そしたら、1人でしゃべってた人が急に話すのをやめてこっちに話しかけてきました、たしか

「なぜそこにいる、さっさとどきなさい、これはただのなんの意味もな

い石だ、少しフシギなへこみがあるだけの石だからおりなさい」

かくれたのに、なんでわたしのことかわかったのかフシギです！

音も立ててないし、暗いし元に戻ったから光らないのにフシギです！

だから動かないでいると声が大きくなりました、でも大きい声にはなれてます、いつもお父さんが大きい声を出してたからです。

でも、おかしが出てきたから出ちやいました、そしたら黄色い人がいました。

そしたら黄色い人が青いでんでん虫と白いでんでん虫に何かを話したら刀の人が来ました、そしたら私の手をつかんでからのぎよくぎがあるところに来ました、黄色い人も後ろからついてきてました。

そしたらイムさまがきのうと同じところにいました。

そして他の五老星達もいました。

そしたらイムさまが何か言ったら、五老星達がわたしにこう言ってくれました。

「今日からお前の名は、ベリル・ラズリだ、いいかいこれからは、ベリル・ラズリとして、われらの力となれ」

名前がシリカじゃなくなるってこと？

なんかいやです！でも、こわかったから何も言いませんでした。

だから、五老星達のわからないところでシリカって名前で行きます！

やっぱり、なんで名前を変えないと行けないのかわかりません！

名前の次はイムさまの近くまで行けって言われたから行きました、そしたらイムさまがカチューシャをつけて、くれました。

取って持ってみたら青色の丸い石が真ん中に付いた赤いカチューシャでした！

真ん中の青い石はタンザナイトって言うみたいです！

太くて四角くて少し付けづらいけど、ずっとつけるように言われたから鳥になってトブ時にたいへんなことにならないなら、ずっとつけることにしました！

でも長方形のハコ？みたいなものに布をつけたかんじがするのは

気のせいかな？

なんかカサカサ音がします、こわしたらおこりそうでこわいから気にしません！

それと、ずっと首にかけてたわたしの天りゆう人のシヨウゴウがついてる、アクアマリンのペンダントをイムさまがとって少し何かしたら、ペンダントの右と左に石が付いてました！

右ははつきりといろんな色が分かれてる石がついた小さいペンダントで、左は青い石がついた小さいペンダントです！

右の石は本当はべつべつの石？みたいな、なんかちがう石がたくさんくつついたみたいですよ！

でもびったりくつついててツルツルしてます！

右と左の石の名前はわたしにつけられた名前と同じって言うてました。

少しの間みてたけどイムさまに言われたから付けてから五老星達の近くまでもどることにしました。

ブキばかりで通りずらいから近くに行く時も、もどる時も鳥になってトンで着いたら元にもどってます！

鳥になってもカチューシャはとれませんでした！

でも、少し首のところで石と石がぶつかってじやらじやらしめた、なんかいやです。

あっそうだ、今日つけてもらった石の名前は部屋にもどったあと刀の人に教えてもらいました！

石にいろいろな意味があることも教えてくれました！

教えてもらった意味を書いておきます！

初めにカチューシャの青い石タンザナイトはコウキ？って言うてました。

コウキってなんなのかわからないけど、とてもよくにあう人になれって言われました。

よくわからないですよ！

次は、ペンダントの右につけられた、にじみみたいなたくさんの石をまとめてベリルって言うてました。

意味はしあわせ、って言ってました。

わたしのアクマの実がコーウンだからかな？

次は、ペンダントの左につけられた石はラピスラズリ、って言うみたいですよ！

この石の意味もしあわせ、って言ってました。

二つの石がコーウンってなんかフシギな気持ちになります！

石の名前と意味はこれでおわります。

いろいろもらったあとお昼ご飯を食べたら五老星達にアクマの実の力を見せるように言われました。

ねむくなるからあんまりコーウンは出しくなかつたけど、なんかこわかったから出しました。

手のひらぐらいのコーウンを6こ出したら五老星のみんなとイムさまにとばしました、少しびっくりしてたけどさわってコーウンをすいました。

でも五老星の人たちはフコーも出せるだろうって言われたからフコー玉も出しました、出しちゃったらだれかがすわないときえないから五老星達にとばしました。

そのままにもなかつたけど少ししたらでんでん虫がなきました、五老星達が何かやってから話しかけると声がしました！

よく聞こえなかつたけど海兵さんの話ってことはわかりました！  
センゴクさんの名前が出たからです！

センゴクさんは海兵さんで一番えらい人ってタツツー達に教えてもらったから知ってます！

あとはロビン？って名前？が出てきたけどなんなんだろう？  
見つけたって聞こえたからまいごになってたどうぶつか人なのかな？

でも、なんで五老星達はさいしょはうれしそうにしてたのに少しづつこわくなるんだろう？

にげた、ってしばらくしたらきこえたからおこってたのかな？

でも、話がおわると少しうれしそうでした、左うでにキズって言葉も聞こえたのになんでなんだろう？わかりません！

その話の後はわたしのアクマの實力でいろんなことをされました。

鳥になってからコーウン玉とフコー玉を出したり、コーウン玉とフコー玉の形を変えたり、どれだけ早くコーウン玉とフコー玉をとばせるかやったり、ものにぶつけてみたり、わたしが鳥になってからどれだけ早くトベるかトンでみたりしました。

わたしも知らなかったことばかりで少したのしかったけど、すつごくねむくなつたから夜ごはんまで寝ちゃいました！

知らなかったことを書いておきます！

知らなかったことは、コーウン玉とフコー玉はものにぶつけてもすり抜けることです！

それと鳥の時も出せることです！

それと形は出す時に変えられることです、鳥の形を考えながら出すと鳥の形で出せます！

それともすつごく早くとばせることです！

それとすつごく早く空をトベることです！

風みたいにトベでびつくりしました！

あんなに早くトベたら世界をすぐに一周できるかもしれないです！

でも、たのしみみたいからゆつくりトビたいです！

あれ？今日と昨日ですつごくページを使ってることに気づきました。

昨日は3ページ使ったみたいです、今日は2ページ使いました！

全部で365ページあって1日1ページなら1年かける日記なのに、でも書きたいことがいっぱいあって1ページに入らないです！

ドレーの人たちがにげてからずっといろんなことがあるから書いてます、わからないことがいっぱい書きたいこともいっぱいだからなの？

わからないけど何ページも使ってるから今日はもう日記をおわります！

おやすみ！

## 第22話 ウリエル

今日は日記を始めてから12月と6日です！

今日はウーちゃんと遊ぼうと思って朝ごはんを食べた後、ウーちゃんの部屋行っただけで今日もいなくてさみしかったです！

だから、五老星達に聞いてみました、ウーちゃんはベガパンク？って言うなんかすごい人のところにいるみたいです！

だから、ウーちゃんと遊びたいからコーウンをねむくならないくらい出してたのんだら、五老星達がよくわからない白い人達を呼んで連れてってくれることになりました！

白い人達はいーじすぜろ？って言ってました。

ゼロは0だからないってこと？でもいるからよくわからないです、だから白い人たちはイージスの人ってよびます！

イージスの人達はわたし達のすごいミカタで、ドレーの人でもスーツの人でもなくてとつてもつよいみたいです。

そしたら、五老星達に言われてイージスの人達について行ったらお城を出て下において、いつもよりも小さい船にのりました！

ウーちゃんのところに着くまで2日かかるみたいです。

でも、いつもよりも長く乗るのははじめてです！

船がゆらゆらするのが楽しくてあっちこっち行ったり来たりしました！

船はゆらゆらするって知らなかったです！

トべるようになってから船に乗るのははじめてだから、ふわっとしたおっきな布のてっぺんにはじめて行きました！

ふわっとしてるところは風が強くてトビずらかったけど、てっぺんから見た海がキラキラしてキレイでした！

青がずーずーと広がってどんなにトンでも、マリージョアの反対までとどかないくらいなにも見えないです！

でもいつかはトンで行ってみたいです！

布を引っかけてるぼうの先に立ってみたら周りがよく見えました！

海は広いし、船はゆらゆらして楽しいし、いいにおいがするし、おひさまがあつたかくて気持ちいいし、やっぱり下を自由にボーケンしてみたいです！

船の上で遊んでたらイージスの人達に呼ばれたからもどりました。

イージスの人たちがこう言いました。

「アクマの実を食べたから海に落ちたら大変なので出来るだけはなれないでください」

まだ遊びたかったけど、なんか怖かったからやめました。

本当に海に入ったら動けなくなっちゃうのかな？

おちたらこわいけどトべるからヘーキかな？

海にさわってみたいです、海で遊んでみたいですが、でもアクマの実を食べたから遊べない、でもトべるのは楽しいからいいや！

トベなくなつたからイージスの人達と遊ぼうとしたけどあぶないからって遊んでくれなかつたです。

だから、船にあつた本を読みました。

本にはいろんなものと文字がのつてて元素記号？つて書いてありました。

わからない漢字の本ばかりで、読もうとしてもよくわからないものばかりだったけど、この本はわかりやすかつたです！

一つ一つどんなものなのか見開きで書いてあつて絵もかいてありました！

石をこわしたり土をほつたらいろんな金ぞくが出てきて。

もやしたり電気を流したら空気の本とOとCが出てきて。

そのままそこにあつたり、何かをこわしたら出てくるものが多かつたです！

さらに、うしろの方にあつた、金ぞくと金ぞくをませたり、金ぞくと金ぞくじゃないものをませたら、金ぞくとませたものが強くなつたり弱くなつたりするつてあつておもしろいです！

金ぞくをませたものは紙よりも小さいお金を作るのに使つてるつて書いてあつたけど、小さいお金がどんなのかあんまり覚えてないからイメージしづらかつたです。

だから、イージスの人にたのんで小さいお金と書いてある金ぞくがほしいって言ったら、どっかに行つて少ししたら持つてきてくれました！

どの金ぞくもピカピカでキラキラしててキレイでした！

丸くて手のひらよりちよつと小さくて何かかかれてました。

小さいお金さわるのものはじめてだと思えます！

くるくるしてみたり、上に投げてみたり、ちよつとなめてみたり、電気を流してみたり、もやしてみたり、つめたくしてみたり、たたいてみたり、つぶしてみたり、思いついたことをやってみました！

金ぞくはフシギでいろんなことができておもしろいです！

元素のことをイージスの人達に聞いたらかがく？って言葉があったから、かがくつておもしろいものがいっぱいあるのかな？

かがくつてなんなのかよくわからないけどたのしそうってことはわかります！

さらにイージスの人達に聞いたら、かがくのすごい人がベガパンクつて言つてました。

ベガパンクのところにウーちゃんはいるから、ウーちゃんと遊んだ後にかがくのこと聞いてみます！

でも、ウーちゃんと遊んでもかがくのこと聞けるかな、ウーちゃんに会いたいからウーちゃんに会ったら聞く時間もないのかな？

でも遊びたい、でもかがくは気になる、どうしよう。

でもわからないことがいっぱいだから着いてから考えます！

今日はコーウンを出したからずっと少し眠たくてもうすつごく眠いから今日は書くのここまでにしてもう寝ます！

おやすみ！

## 第23話 科学の道

今日は日記を始めてから12月と7日目です！

今日は船に乗った次の日です。

イージスの人に聞いたらウーちゃんのところに着くのは今日か明日になるみたいです！

ウーちゃんが船に乗ってベガパンクのところに行っただのが、わたしが船に乗った前の日だからウーちゃんはもう着いてるみたいです。

そういえば、ウーちゃんはベガパンクのこと知ってたのかな？

知らない人はあぶないってタツツツが言ってたから、知らなかったら行かないと思います！

でも、ベガパンクのことはウーちゃんがいるところだけしか知らないから、知らないあぶないところに行こうとしてたってこと？

よくわからないけど、コーゆーのをトンでお日さまに行くあつい虫って言ってた気がします！

でも、お魚がつれたってことも同じ意味だってツバメが言ってたよ  
うな気がします！

どっちだっけ？

でも、トラさんの家に入らないとトラみたいなネコさんは手に入らない、って言うからあぶなくても気にしません！

でも、船の上をボーケンできなくて、イージスの人は遊ぼうとしてもよくわからないけど仲良くなれないから、今日も昨日と同じことをやりました。

金ぞくとかがくのことはいっぱい聞いても答えてくれるから、いっぱい聞きました！

ウーちゃんのところに着いたらウーちゃんといっぱい話して、いっぱい遊んだら、ベガパンクにいっぱいかがくのこと教えてほしいです！

かがくがすごい人ならかがくを聞くのが正しいからです！

何かかすごい人にはそのすごいものを聞けてドルが言ってきました。

かがくがすごいといろんなことができる、つてイージスの人が言つてたから、わたしもかがくのすごい人になつて、かがくがないと行けないところに行つて、いっぱいボーケンしたいです！

海は入れないからかがくで入れるようになれたら、海の中もボーケンしたいです！

海の下には魚人島があつてタイガーさんは魚人島にいるかもしれないから行きたいです！

でも、海の中の魚人島に行くにはシャボン玉の中に入らないといけないけど、シャボン玉はしっぱいするとわれちゃうから、アクマの実を食べたわたしは、いけないかもしれないです。

だから、強いシャボン玉やシャボン玉を使わなくても魚人島に行けるようなものをかがくで作れるかもしれないからかがくを知りたいです！

魚人島は海が一番下にあつて魚人島より下はあんまりない、つてタイガーさんが言つてました！

魚人島にどんなのがあるのか見てみたいです！  
タイガーさんから聞いてたら見てみたくなつたからです！

海の中は行ったことないから、どんなのがあるのかわからないから、ボーケンがたつくさんあると思います！

泳げないからウーちゃんや泳げる人と一緒に行かないとあぶないから、わたしだけで行けないけど、ボーケンはみんなで行つた方が楽しそうだから気にしません！

だから、早くウーちゃんに会いたいです！

早くウーちゃんのいるベガパンクのところに着かないかな。

早く着いてほしいです！

だつて、なんかイージスの人たちが変な目でわたしを見てる気がするからです。

かめん？をつけてたりウソの顔をしてるからよくわからないけど、なんかつめたい？あんまり遊ぼう、つて言つてくれなくて、遊ぼう、つて言つても遊んでくれるけど遊んでないからです。

こーゆうのをたんこぶにさわる、みたいな感じつてアントが言つて

た気がします。

わたしから何か聞いたり言ったりしたら何かあるけど、なにもないとご飯とそうじしかしてくれません。

そーいえばパンゲア城に来てから、ご飯を食べる時もあいさつをいっしょにしてくれなくなりました。

パンゲア城をボーケンしたり五老星達がいたから気づきませんでした。

そーいえば本を読んでる時や気になったことがないと何か教えてくれない気がします。

なんか何かいづらいです、船の上に出てもあぶないから真ん中のほうにいなさいって言われるから海がよく見えないです。

泳げなくても船の上から海まで鳥になって、トべるくらい高いから大丈夫なのになんで。

わたしがポツケに入れたアメを取ろうとしたとき、みんなお父さんがドレーの人の部屋に近づいてきたときのドレーの人達みたいな目をして見てきます。

でも、アメを取り出して食べたらあの目で見なくなります。

わたしはなにもこわいもの持ってないし、こわいことしないのになんで、みんなお父さんやお母さんを見る目で見てくるのか、わからないです。

早くウーちゃんに会いたいです！

そーいえば、かがくって二つの文字があるけどどっちで書けばいいのかわかりません。

禾斗学なのかイヒ学なのか、どう違うのが書いてて気になったけどわからないです！

イージスの人に聞きたいけど近くにいないから聞きにくいです。

ベガパンク聞いたらわかるかな、明日ベガパンクに会うから聞いてみます！

明日が楽しみだけど、もう今日は眠いから寝ます！

おやすみ！

## 第24話 科学者

日記を始めてから12月と8日目です！

今日はとっつっつっつても楽しかったです  
かかくつてこんなにおもしろいんだ！  
!!!!!!

ベガパンクさんのいる島に着いて、ベガパンクさんに会って、ガスの人に会って、やっとウーちゃんに会えました！

今日の朝ベガパンクさんのいる島に着きました！

ベガパンクさんのいる島は大きくて、大きな家？がありました！

大きな家はケンキュウジョ、って言うみたいです。

ケンキュウジョの周りにも何個か家がありました。

周りの家はたくさんケンキュウジョの人達家って言ってました。

店みたいなものはあるのかよくわからなかったけど、無いとなにも買えないからあると思います！

ケンキュウジョのドアはとつても大きくて強い金ぞくでできてる、って言うてました！

中に入るにはなにか必要みたいだったけど、わたしはあの服を着てたから門を守ってる人やフシギなガラス？みたいなものが通してくれました。

中に入ると、いろんなキカイ？モケイ？があっちこつちにあります。

丸いボールみたいなものや、二本の棒がぐるぐるしてて間に棒がいつぱいはさまつてるものや、なんかものすつごく大きいフシギなガラスみたいなものがありました。

フシギなガラスはその辺の白い服を着たケンキュウインの人に聞いたら、モニターって言うみたいです！

あと、いつぱいよくわからないものが書いてある紙があっちこつちにありました。

一つ取ってみてみたら、羽根が生えたトカゲみたいな生き物？が書いてありました！

絵の近くに名前みたいなものと、読めないむずかしい字がたくさん

書いてあってよくわからなかったです！

名前みたいなものはドラゴンって書いてありました！

ドラゴン以外の絵もあったけどDMAなんとかって書いてある絵とかでよくわからなかったです。

DMAってなんだろう、読めたけどよくわからないです。

ほかにも、落ちてる紙を取ってみてみました！

そしたら元素の本で見た文字がいっぱい書いてあってよくわからなかったです。

文字のほかに大きい数字と小さい数字が書いてありました。

どれも、たぶん金ぞくの元素だったと思います！

いろんな紙を見てたけど、ウーちゃんに会いたいから少しだけにしめました！

ケンキュウインの人にウーちゃんがどこにいるのか聞いたら、ベガパンクさんのところにいる、って言ってたから連れてってもらいました！

ちなみに、イージスの人は後ろでしずかにわたしに着いてきました、何かしてたのかよくわからないです。

ケンキュウインの人となにか話してたような気がするけど聞いてなかったです。

それで、ようやくウーちゃんに会えました！

ウーちゃんと、ペガパンクって呼ばれたヨコセンの服の上から白い服を着た人と向かい合っていました。

ウーちゃんはななめの金ぞくのベッドに寝てました。

ペガパンクさんがウーちゃんに何かしてたみたいだけど、わたしがウーちゃんって言ったらペガパンクさんがこっちを向いてくれました。

わたしを見たあと、もう少しだからまってね、って少しビツクリしたように言ったから少し待ちました。

ウーちゃんにくっついてたヒモ？みたいなものをベガパンクさんがどんどん取って行って、取ったあとにホータイを巻いてました。

ヒモみたいな物を取る前に何かしてたけどよく見えなかったです。

そしてウーちゃんをゆらして起こしました！

何回かゆらしたらウーちゃんが起きたから、ウーちゃんにとびつきかけたけど、ベガパンクさんに止められました。

とびつくのはまだあぶないからって言ってました。

だから、こんどは起きあがって立ったウーちゃんにゆっくり近づいてウーちゃん、って言いました！

そしたら、少ししてからゆっくりとシリカちゃん、って言いきました。だから、ゆっくりとウーちゃんをだきしめました！

どこかなんか少し変なかんじがしたけど、ウーちゃんの羽根も尻尾も耳もなにも変わったところはなかったから、気のせいだと思います！

なんでいなくなったのか聞いたら、行ったらもつと強くなれるよって言われたからみたいです。

ウーちゃんはわたしを守りたいから強くなりたいって言いえました！

ミンクゾクは生まれたときから強いけどスーロンでもちちゃんと、たかえるようになったら、もつと強くなれる、だからすごいかがくのかしこいペガパンクさんにあつたみたいです！

それで、ベガパンクさんはウーちゃんに強くなれるようなことをしたみたいです。

ヒモみたいな物をつけたり、赤いものがついたハサミみたいなものやナイフみたいなものがなんこあつて、なんか四角いすごくかたくて大きいモニターがあつたフシギな物が近くにあつたけど、のぞみをかなえるためのもの、ってことしか言っただけです。

フシギなことばかりだったけど、ウーちゃんは強くなるために、たまにベガパンクさんのところに行かなくちやいけないみたいです。

ウーちゃんが行かなくちやいけないけど、ウーちゃんとはなれるのはイヤだから、かがくをもつと知りたいから、ウーちゃんといっしょにたくさん行くことにしました！

ウーちゃんがベガパンクさんに何かしてもらってるあいだ、わたしはベガパンクさんのケンキュウインの人にかがくを教えてもらえば、

ウーちゃんに守ってもらわなくてもヘーキなぐらい強いすごい物を作れるようになるからです！

かがくはすごい物をいっぱい作れるから、わたしも知ったら作れると思うからです！

あたらしいものは何回もやってみないとわからないけど作ろうとすることが大事だって、言ってた気がします！

まちがいは完成のとも、って言葉があった気がするからやってみます！

それで、ウーちゃんと少し話したあとペガパンクさんに聞いてみました、かがくってどんなもの？って。

そしたらこう言いました、生活をユタカにするための先祖から続く知シキのつみ重ね、って。

教えてほしいって言ったら良いよ、って言ったから教えてもらえることになりました！

ウーちゃんはわたしがかがくを教えてもらおうあいだ、まだ別のことがのこってるからほかの部屋に行きました、この部屋でもよかつたけど本があるから、わたしとペガパンクさんも他の部屋に行つてかがくの基本から教えてくれました！

しんじやうドクは量によって変わるから、どんなものでもしなないドクになる量はある。

知れば知るほどかがくは安全に使えてあたらしいかがくも作れる。どんなことにも、かならず作り方がある、からわかるまで何回もた

めしてみる。

知らないものはおそれずにシンチョウに近づいて調べる。かがくはつみかさねてできてるから、全部つながってる。

できるだけしっかり見てちゃんと知る。

元素には大きく4つの形がある固体より液体より気体よりプラズマで温度が高くなって、固体ほど動かなくてプラズマほど動く。

元素には中性子があつてその周りを電子があつて、電子の数は元素や元素の組み合わせで変わる。

植物は光にあたると元気を作れて、肥料と水はご飯。

空にいっぱいある星にはみんな名前がついててみんな回ってる。空はどこまでも続いているけどO2があるところはどこまでも続かない。

O2がないと水の中にいるみたいに息ができない。

海もどこまで続いているかわからないところがある。

虹は光が水でちらばるからできる、光はお日さまが作ってくれる。

お日さまの光は風を作って雨も作ってみんなを温めてくれる。

鳥が空をトべるのもお日さまの光が空気をあつたためて風を作ってくれるから。

ほかに、いっぱいウーちゃんがかわるまで教えてくれました！

日記に全部書こうと思ったけど、全部日記に書きゃったらページがすぐになくなっちゃうから、かがくのは全部かがく用にした本に書くことにします！

自分で書いたら覚えやすくて見やすいから自分で書きます！

それに、自分だけのががくの本がこれからたつくさん作れたら、なんかうれしいです！

絵もたつくさん書いたらわかりやすくなるのかな？

わからないからたつくさん書いてみます！

ペガパンクさんにいろんなことを聞いてたら、ウーちゃんがケンキュウインの人に連れられてやってきました。

だから聞くのをやめて今はウーちゃんと遊ぶことにしました！

ペガパンクさんがウーちゃんは体を動かしても良いって言ったから、思いつきり遊べそうなところにケンキュウインの人に連れてってもらいました！

イージスの人は1人だけわたしたちについてきて、他の人はどっか行きました。

ついてきた人はわたしたちが遊ぶのを見てるだけで遊ぼつて言っても遊んでくれなかったです。

ウーちゃんと遊んでたらウーちゃんがトべるようになってました！

羽根をパタパタ動かして少しづつパタパタが早くなってトンでま

した！

最初は少ししかトベなかつたけど、鳥になってトンだわたしの足から手をはなしたらパタパタしなくて羽根をいっぱい広げてゆつくりとおちながらトンでました！

ゆつくりおちながらトブのを何回もやってみたら羽根をパタパタして、少しなら自由に空をトべるようになりました！

ウーちゃんもわたしもうれしくていろんな人にウーちゃんと、ウーちゃんは尻尾と羽根をパタパタしながら、わたしはトビながら言ってみてました！

言って回ってたらすぐに晩ご飯の時間になってたから島でご飯を食べて寝ることになりました！

1週間ペガパンクさんの居る島に居れるみたいだからです！  
なんかイージスの人がいろんなことをやるからみたいです。

食べたことないものを食べてみたいって言ったら、晩ご飯にめずらしい生き物のお肉が出てきました！

きょうりゆう？って言うむかしに居たハチユウルイ？に見た目が似ていて大つきくなつた生き物だったみたいです。

むかしに居た生き物がなんで食べれるのか聞いてみたら、なぜか生きてる島があつて。

その島からとつてきたやつが今日しんじやつて、せつかくだからめずらしいから食べてもらいたかつたからみたいです！

やいてソースがかけてあつて鳥肉みたいな味だけど牛みたいな肉で少しかたかつたけどおいしかったです！

スープにも入つててやわらかくなつてて、おいしかったです！  
キャベツとジャガイモと豆とニンジンが入つてて一緒に食べたら

おいしかったです！  
やいたやつよりスープに入れたやつの方が、やわらかくてヤサイの味もしておいしかったです！

今日のはかかくの本も書いて、日記も見開きの二ページと三ページのちよつとにいっぱい書いたからウーちゃんがまだ寝ないの？って聞いてきました。

今日のはかがくをまだ基本だけどペガパンクさんに教えてもらって、  
ウーちゃんと会えて遊べてウーちゃんがトべて、きょうりゅうのお肉  
も食べれて、いっぱいかがくの本も日記も書いたから眠くなってきま  
した！

だから、今日はもう寝ます！

おやすみ！